第41回全日本高校選手権大会

下松工（山口）聖和（宮城）に栄冠

1990年8月1日～6日

宮城県・仙台市

男子

1回戦

洛西（京都）22（12―11, 10―10）21 青森商（青森）

〔戦評〕前半、青森商はロングシュート、ポストプレーに対して、洛西は速攻、サイド攻撃で得点を重ね10―10で折り返した。後半に入っても、両チームともチームの特徴を発揮し、一進一退を繰り返し、残り1分洛西がペナルティースローを決め1点差で終了した。

得	〔洛西〕		〔青森商〕	得
0	轟	GK	鈴木	0
0	西岡	GK	竹森	0
2	福島	FP	佐藤	7
3	佐々木	FP	高谷	3
0	上田	FP	名古屋	2
4	田中	FP	牧野	3
4	開田	FP	岡村	6
9	川村	FP	佐々木	0
0	濱砂	FP	穐元	0
0	中島	FP	福田	0
0	皆川	FP	山口	0
0	文屋	FP	工藤	0
22		〔審・大河原・池田〕		21

清水東（静岡）28（15―14, 13―9）23 都城泉ヶ丘（宮崎）

〔戦評〕速攻の清水とセットの都城と持ち味を出し、前半清水の1点リード、後半も一進一退を繰り返し好ゲームとなったが、勝負どころの残り10分、都城の無理なロングシュートをよく止め、清水が走り勝った。

得	〔清水東〕		〔泉ヶ丘〕	得
0	持塚	GK	下徳	0
0	橋本	GK	川野	0
2	望月	FP	森永	10
10	久保	FP	立和名	1
0	竹下	FP	桂	4
4	澤田	FP	中村	1
3	西村	FP	福森	3
0	山崎	FP	鬼塚	0
4	大石	FP	塩川	4
5	小松	FP	有村	0
0	稲名	FP	徳丸	0
0	内田	FP	古川	0
28		〔審・林・佐藤〕		23

松山北（愛媛）23（9―5, 14―3）8 大島（鹿児島）

〔戦評〕前半、大島はポストプレーで先取点をあげるが、3分に松山北はサイドから豊田が決め追いつく。その後、7分まで両チームにミスが目立ち無得点の状態が続いた。17分松山北に退場者が出たものの、大島はむしろチャージパスミスから速攻などで2点連取され、9―5で松山北がリードする。後半も松山北は、フォーメーションプレーを生かして、成松や吉金が確実に得点し23―8で圧勝した。

得	〔松山北〕		〔大島〕	得
0	大森	GK	入来	0
0	佐々木	GK	仁村	0
3	豊田	FP	西	1
1	友近	FP	大津	1
1	武村	FP	有村	0
1	竹下	FP	益満	4
4	成松	FP	富	1
8	中野	FP	堅山	1
5	吉金	FP	泉	0
0	井上	FP	長田	0
0	山田	FP	栄	0
0	高田	FP	勝	0
23		〔審・太田・清水〕		8

添上（奈良）26（13―6, 13―5）11 江津（島根）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームとも堅さが見られたが、添上の辰己、中井のロングシュートや速攻が決まり出し、GK橋本の好守が光った。これに対して江津は、添上の堅いディフェンスに攻撃のリズムをつかめず前半終了。後半に入っても、添上は速攻やスカイプレーなど攻撃の力をゆるめず点差を広げた。

得	〔添上〕		〔江津〕	得
1	橋本	GK	羽手原	0
0	松井	GK	山下	0
3	南	FP	益田	2
2	上田	FP	森	3
9	辰己	FP	川下	1
2	中井	FP	植田	1
6	吉川	FP	岡本	1
3	財木	FP	宮里	1
0	松山	FP	多岐	2
0	植村	FP	斉藤	0
0	藤原	FP	大賀	0
		FP	桑原	0
26		〔審・石川・工藤〕		11

長崎日大（長崎）21（12―6, 9―9）15 小松明峰（石川）

〔戦評〕同型チームの対戦で熱戦が期待されたが、前半5分主将野原の連続得点でペースをつかんだ長崎が12―6とリード。後半、小松がGKを中心によく守り、残り5分で3点差まで追い上げるが、前半の失点があまりに大きく逆転には至らなかった。

〔明峰〕

	選手	得
GK	辻本	0
GK	柏谷	0
FP	西	2
FP	角井	4
FP	藤原	3
FP	清水	3
FP	佐伯	0
FP	三宅	0
FP	細川	2
FP	小田	0
FP	道田	0
FP	平加	1
		15

（審・横山 工藤）

〔長崎日大〕

	選手	得
GK	中野	0
GK	菅野	0
FP	野原	9
FP	松永	1
FP	横尾	3
FP	大石	0
FP	本田	1
FP	本木	2
FP	本山	5
FP	門口	0
FP	林	0
FP	川崎	0
		21

下松工（山口）29〔15—2 14—5〕7 **三好農林**（徳島）

〔戦評〕前半20分まで、下松工の厚いディフェンスの壁とGK亀山の好守に三好農は単発な攻めで無得点。その間、下松工はキャプテン湯浅や北風、広政らの判断のよい出足で速攻に結びつけ、14点連取する一方的なゲーム内容で15—2で折り返した。後半も下松工は、17分まで8点連取し、その後も手を抜かず着実に加点し29—7で圧勝した。

〔三好農〕

	選手	得
GK	石川	0
GK	野田	0
FP	山下	0
FP	鈴木	0
FP	橋本	4
FP	西川	0
FP	南	2
FP	村田	1
FP	元木	0
FP	金久	0
FP	北地	0
FP	太刀野	0
		7

（審・清水 太田）

〔下松工〕

	選手	得
GK	亀山	0
GK	前田	0
FP	湯浅	5
FP	北風	6
FP	清水	2
FP	河内	2
FP	高杉	6
FP	吉岡	0
FP	市妙	3
FP	山本	0
FP	広政	5
FP	坂根	0
		29

北村山（山形）20〔12—5 8—11〕16 **彦根東**（滋賀）

〔戦評〕攻撃が似たチーム同志の戦いとなったが、速攻とポストプレーをおりまぜた北村山が7点差にして前半を終了した。後半に入り北村山は荒いディフェンスで多数の退場者を出したが、前半の点差が大きくゲームを終了した。彦根東は最後まで攻撃のリズムがつかめなかった。

〔彦根東〕

	選手	得
GK	岸本	0
GK	細江	0
FP	池上	6
FP	織田	5
FP	加納	1
FP	山崎	0
FP	属	2
FP	橋本	2
FP	田中	0
FP	安井	0
FP	渡部	0
FP	村田	0
		16

（審・清水 岡本）

〔北村山〕

	選手	得
GK	菅原	0
GK	今野	0
FP	高桑	1
FP	土屋	0
FP	斉藤拓	0
FP	斉藤新	1
FP	海藤	2
FP	安達	4
FP	西尾	12
FP	富樫	0
FP	国分	0
FP	押切	0
		20

市岐阜商（岐阜）20〔8—8 12—7〕15 **富岡**（群馬）

〔戦評〕両チームとも、GKの好守もあり前半は一進一退の好ゲームとなる。後半開始、岐阜・冨田のミドルシュートでリードするも富岡・茂木のサイドで同点、その後、岐阜が4連続得点しペースをつかんだ。富岡にしてはめずらしく、小さなミスが続き速攻も決まらず敗退した。

〔富岡〕

	選手	得
GK	小沢	0
GK	大沢	0
FP	茂木	2
FP	新井	6
FP	神戸	2
FP	佐藤	0
FP	田中	0
FP	吉田	1
FP	小井上	0
FP	宇佐美	1
FP	斉藤	3
FP	矢島	0
		15

（審・横山 工藤）

〔市岐商〕

	選手	得
GK	渡辺	0
GK	渡部	0
FP	富田	4
FP	杉山	5
FP	栗田	1
FP	近藤	2
FP	上吉原	5
FP	長谷川	3
FP	水島	0
FP	鈴木	0
FP	加藤	0
FP	塩谷	0
		20

学法石川（福島）23〔12—7 11—10〕17 **柏崎**（新潟）

〔戦評〕柏崎のオーバーステップから学法石川の小針が速攻に結びつけ1点先取、一方、柏崎・細山がミドルシュートを決め、中盤まで互角の戦いとなる。学法石川の小針、矢吹などで切れのあるフェイントからカットイン、サイドシュートを決め前半11—7で終る。後半、柏崎坂井のミドル、田村のポストシュートなどで反撃するものの、足をつかったスピードに勝る学法石川が23—17で逃げ切った。

〔柏崎〕

	選手	得
GK	生田	0
GK	矢代	0
FP	細山	2
FP	徳間	0
FP	坂井	10
FP	石黒	0
FP	栃堀	2
FP	近藤	0
FP	村山	0
FP	伊北	0
FP	田村	2
FP	品田	1
		17

（審・渡辺 藤原）

〔石川〕

	選手	得
GK	本田	0
GK	荒川	0
FP	辻	0
FP	添田武	0
FP	小針	8
FP	藤田	4
FP	角田	1
FP	三瓶	1
FP	岡部	1
FP	遠藤	2
FP	矢吹	6
FP	添田貴	0
		23

市川（千葉）24〔9—8 10—11 2—1 5—0〕20 **那賀**（和歌山）

〔戦評〕前半、市川のマンツーマンディフェンスを振り切って那賀がシュートを決めたが、13分過ぎから市川のセット攻撃が決まり出して、市川1点リードで前半終了。後半になっても、1点を争うゲーム内容で同点でゲーム終了。延長に入っても、後半市川が次々にシュートを決め、結局6点差でゲームセットとなった。

〔那賀〕

	選手	得
GK	加藤	0
GK	山崎	0
FP	藤岡	8
FP	金川	3
FP	土岐	6
FP	白山	0
FP	木村	1
FP	佳岡	2
FP	引口	0
FP	宮城	0
FP	神前	0
FP	加藤	0
		20

（審・尾形 小林）

〔市川〕

	選手	得
GK	柴内	0
GK	藤牧	0
FP	平川	6
FP	岡田	0
FP	吉田	0
FP	三宅	0
FP	松村	3
FP	近藤	8
FP	中野	0
FP	下西	3
FP	福田	4
FP	西谷	2
		26

湯沢（秋田）19〔10—8 9—10〕18 **土佐**（高知）

〔戦評〕両チームとも立ち上がり動きが硬かったが、5分過ぎあたりからペースを取り戻した。両チームとも再三のシュートチャンスをGKの好守に阻まれ、前半終了間際速攻で得点を決めた。湯沢のリードで終了。後半、スタート直後から湯沢が5連続ゴールを決め試合の主導権を握ったかに見えたが、土佐もジワジワと追い上げ、21分過ぎに同点に追いついた。しかし、土佐の粘りもここまでで、湯沢が1点差で勝利をものにした。

〔土佐〕

	選手	得
GK	平	0
GK	久松	0
FP	新井	0
FP	浜田	1
FP	池田	1
FP	上村	1
FP	森岡	4
FP	中越	0
FP	植木	4
FP	吉村	4
FP	橋本	3
FP	毛利	0
		18

（審・矢田 幸塚）

〔湯沢〕

	選手	得
GK	照井	0
GK	進藤	0
FP	佐藤明	6
FP	鋳谷	1
FP	森田	0
FP	近江	4
FP	佐藤光	5
FP	高橋	1
FP	斉藤	2
FP	小松	0
FP	高橋	0
FP	木村	0
		19

岩井（茨城）21〔10—6 11—10〕16 **函館有斗**（北海道）

〔戦評〕前半、ひとつひとつのプレーに堅実さのある岩井が速攻を中心に加点していくのに対し、有斗は再三の好機を相手GKの好守に阻まれ、なかなか波に乗れずに岩井が10—6と4点リードで終了した。後半に入り、有斗も速いボール回しから得点し2点差までつめよるが、そのたびに岩井の確実なプレーに得点を許すなど、なかなかリズムをつかめないまま涙をのんだ。

〔有斗〕

	選手	得
GK	鈴木	0
GK	藤巻	0
FP	渡部	3
FP	納谷	3
FP	鳶澤	4
FP	小椋	2
FP	神山	2
FP	浜西	2
FP	石井	0
FP	渡辺	0
FP	松田	0
FP	新妻	0
		16

（審・斉藤 田村）

〔岩井〕

	選手	得
GK	金子	0
GK	高橋	0
FP	中村	4
FP	松並	0
FP	石塚	4
FP	荒井	5
FP	浅野	0
FP	浜野	3
FP	岡田	0
FP	風見	5
FP	篠塚	0
FP	飯田	0
		21

育英（兵庫）27〔13—8 14—11〕19 **北陸**（福井）

〔戦評〕両チームとも小気味よく走る好チームであるが、ミドル、サイド、速攻とどこからもむらなく点の取れる育英が有利にゲームを展開、北陸は前半の中盤に4点で点が止まったのが苦しく、前半

は13—8で育英5点リードとなる。後半、斉川、荒尾を中心に北陸の攻撃にリズムが出かかったが肝心な所でミスが出てしまい、点差を縮めることができなかった。

〔北陸〕

	選手	得
GK	安藤	0
GK	大原	0
FP	児嶋	0
FP	手塚	3
FP	斉川	3
FP	荒尾	8
FP	網干	0
FP	神吉	1
FP	中根	2
FP	上野	1
FP	金谷	0
FP	高橋	1
		19

（審・守屋 照井）

〔育英〕

	選手	得
GK	西條	0
GK	水谷	0
FP	平岡	2
FP	伊藤	6
FP	上野	6
FP	田中	5
FP	高木	3
FP	森田	0
FP	北村	5
FP	清水	0
FP	大原	0
FP	中野	0
		27

東岡山工（岡山）26（12—6、14—16）22 神埼農（佐賀）

〔戦評〕両チームとも、セットオフェンスに決め手を欠き、少ないチャンスを確実に決めた東岡山工が前半をリードした。一方神埼農は、大事な場面でミスが目立ち、退場者を数多く出すなど苦しいスタートとなった。後半のでだしから、速攻でリズムをつかんだ東岡山工が終始試合の主導権を握った。

〔神埼農〕

	選手	得
GK	野崎	0
GK	原口	0
FP	徳安	4
FP	角田	0
FP	久保	0
FP	宮地	2
FP	井口	3
FP	坂井	0
FP	佐藤	0
FP	中島	6
FP	大坪	3
FP	山下	4
		22

（審・田村 高橋）

〔東岡山〕

	選手	得
GK	影山	0
GK	吉永	0
FP	青江	8
FP	後藤	5
FP	岡田	2
FP	小松原	2
FP	道上	2
FP	山口	0
FP	松浦	7
FP	久保	0
FP	本澤	0
FP	海田	0
		26

神埼農も必死に食い下がったが、リードを奪うまでにはいかなかった。

高松商（香川）23（14—10、9—12）29 屋代（長野）

〔戦評〕立ち上がり、ミスの目立つ屋代に対し、高松商はポストプレー、速攻をおりまぜ7—1とリードした。これに対し、中盤からリズムをつかみかけた屋代は、山本の3本の速攻などで一時は3点差までつめ寄ったが、高松商は西塚のポストプレーで加点し14—10で折り返した。後半に入り、屋代は山本のカットインなどで追いすがり、ついに21—21の同点に追いついた。その後、双方1人退場となった時点で1点ずつ加点し、残り時間10秒でPTを得た高松商はPTを落としたものの、そのリバウンドを拾って得点し、1点差で逃げ切った。

〔屋代〕

	選手	得
GK	平部	0
GK	近藤	0
FP	武田	2
FP	足取	0
FP	山本	12
FP	北村	0
FP	清水	4
FP	中沢	2
FP	宮城	0
FP	林	0
FP	北沢	1
FP	石坂	1
		22

（審・田村 斉藤）

〔高松商〕

	選手	得
GK	紺田	0
GK	平木	0
FP	西村	5
FP	久保田	0
FP	山田	1
FP	小川	0
FP	東山	7
FP	西塚	6
FP	竹川	0
FP	中野	1
FP	吉峰	3
FP	森	0
		23

日大明誠（山梨）23（12—4、11—12）16 首里東（沖縄）

〔戦評〕日大明誠は開始直後PTで先制、その後もキャプテン浅野を中心にしっかりした守りからの速攻やサイドで着実に加点し、攻めあぐんで得点の伸びない首里東を8点リードして前半を終えた。後半は、本来の動きを取り戻した首里東が必死に追撃、ポストプレーなどで点差をつめるが、要所を明誠GK松本に止められて追いつけなかった。

〔首里東〕

	選手	得
GK	金城尚	0
GK	嘉数	0
FP	与那嶺	2
FP	金城博	6
FP	仲原	2
FP	中村	2
FP	砂川	0
FP	新垣	2
FP	松川	0
FP	長堂	0
FP	大越	0
FP	宇良	0
		16

（審・錦織 小越）

〔明誠〕

	選手	得
GK	松本	0
GK	松下	0
FP	水越	3
FP	小沢	5
FP	秋山	2
FP	奥津	3
FP	浅野	6
FP	岸	0
FP	広野	0
FP	田坂	0
FP	市川	4
FP	功力	0
		23

2回戦

横浜商工（神奈川）26（14—7、12—5）12 洛西

〔戦評〕前半開始直後からの横浜商工の多彩な攻撃に対して、洛西は川村を軸によく食いついていたが、次第に攻撃のパターンを読まれ点差が開いていった。後半も、テクニックに勝る横浜商工が、得意の手渡しパスも要所で用いて着実に加点した。洛西はフローターをサポートするまわりの動きが欲しかった。

〔洛西〕

	選手	得
GK	轟	0
GK	西岡	0
FP	福島	1
FP	佐々木	1
FP	上田	2
FP	田中	1
FP	開田	2
FP	川村	5
FP	濱砂	0
FP	中島	0
FP	皆川	0
FP	文室	0
		12

（審・大河原 池田）

〔横浜〕

	選手	得
GK	本郷哲	0
GK	戸辺	0
FP	本郷隆	1
FP	西村	6
FP	関根	10
FP	太刃川	2
FP	後藤	1
FP	堀川	1
FP	沢田	2
FP	中村	1
FP	高橋	0
FP	高野	2
		26

米子東（鳥取）14（7—5、7—6）11 清水東

〔戦評〕前半は一進一退のゲーム展開だったが、両チームGKの好守に阻まれ、男子としては少ない得点で米子東が7—5のリードで折り返した。後半立ち上がり、清水東はセットから小松が得点し、リズムをつかみかけたかに見えたが、ディフェンスミスで逆にペナルティーを許し追撃ならず。GK持塚がよく守っただけにシュートを確実に決めて欲しかった。

〔清水東〕

	選手	得
GK	持塚	0
GK	橋本	0
FP	望月	1
FP	久保田	4
FP	竹下	0
FP	澤田	1
FP	西村	2
FP	山崎	0
FP	大石	0
FP	小松	3
FP	稲名	0
FP	内田	0
		11

（審・工藤 横山）

〔米子東〕

	選手	得
GK	野口	1
GK	稲田	0
FP	生田	1
FP	川端	3
FP	阪田	0
FP	大許	2
FP	田川	0
FP	長谷	0
FP	本池	2
FP	宮辺	2
FP	山本	0
FP	北野	3
		14

高岡向陵（富山）24（11—9、13—9）18 松山北

〔戦評〕前半、高岡向陵が河原の鋭い出足から速攻で5—1とリードするが、松山北も中盤からポス

トプレー、サイドシュートが決まり出し、8—7の接戦となった。その後、相手のロングシュートで反撃し再逆転、終了間際に速攻が決まり2点差として折り返した。後半開始早々、続けて2人の退場者を出した高岡向陵が1失点でなんとかしのいだ後、速攻などで加点し、15—11と引き離した。しかし、松山北もGKの好守から再び追い上げ好ゲームとなった。結局、守りから攻めへの切り換えの速さで一歩勝る高岡向陵が、勝負どころで速攻をたて続けに決め、24—18で逃げ切った。

〔松山北〕

	氏名	得
GK	大森	0
	佐々木	0
FP	豊田	1
	友近	1
	武村	0
	竹下	4
	成松	2
	中野	6
	吉金	4
	井上	0
	石丸	0
	矢野	0
		18

〔向陵〕

	氏名	得
GK	井畠	0
	野崎	0
FP	藪下	2
	藤坂	5
	中西	4
	宮崎	7
	高原	0
	車	0
	高橋	0
	白川	1
	河原	5
	大野	0
		24

（審・田村 高橋）

浦和東（埼玉）28（15—11、13—6）17 **添上**

〔戦評〕前半、浦和実は相手のパスミスとシュートミスからの逆速攻で得点を加えたのに対し、添上はミドルシュートで対抗したが、ややシュートミスがあり浦和7点リードで終了。後半になっても、浦和実のGK加藤のディフェンスの良さが光り、加藤から鈴木へのパスが正確に法まり、浦和実の勝利で終了した。

〔添上〕

	氏名	得
GK	橋本	0
	松井	0
FP	南	2
	上田	3
	辰己	4
	中井	2
	吉川	3
	財木	3
	北川	0
	松山	0
	林	0
	植田	0
		17

〔浦和実〕

	氏名	得
GK	加藤	0
	高橋	0
FP	田村	7
	若杉	0
	二川	1
	大野	0
	高橋	2
	村沢	3
	鈴木	7
	高尾	5
	羽白	3
	佐藤	0
		28

（審・大河原 池田）

長崎日大 25（13—7、12—11）18 **盛岡第一**（岩手）

〔戦評〕前半、長崎日大はチームの持ち味を発揮して、フェイントからのシュートがよく決まり終始押し気味に試合を運んだ。盛岡一も高橋のミドル、佐藤のポストからのシュートで追い上げ12—11で終った。前半立ち上がり、長崎日大は4連続ポイントをあげ、そのままスピードあるプレーで粘る盛岡一をつき離した。

〔盛岡一〕

	氏名	得
GK	小沢	0
	石川	0
FP	高橋	5
	江村	0
	佐藤	3
	高橋	8
	小川	0
	斉藤	1
	赤沢	0
	尾形	0
	千葉	1
	松嶋	0
		18

〔長崎日大〕

	氏名	得
GK	中野	0
	菅野	0
FP	野原	4
	松永	3
	横尾	4
	大石	0
	本田	4
	本木	4
	本山	5
	門口	0
	林	0
	川崎	1
		25

（審・岡本 清水）

下松工 15（6—9、9—4）13 **明星**（東京）

〔戦評〕お互い立ち上がりから、速い展開で1点を争う好ゲームとなった。中盤明星が高橋の連続ゴールでリードを奪った。残り5分から、明星に連続して退場者が出、3点差につめよられて前半が終った。後半、明星のボール回しを読んだすばらしい下松工のディフェンスで20分間を1点に押えこんだ。その間相手チャージからの速攻がさえ完全に主導権を握った。また再三のノーマークシュートを好守した下松工GKの活躍が光った。

〔明星〕

	氏名	得
GK	梶山	0
	小林	0
FP	佐藤	4
	島沢	3
	斉藤	0
	田代	0
	高井	1
	本多	0
	高橋	5
	山崎	0
	堀野	0
	鈴木	0
		13

〔下松工〕

	氏名	得
GK	亀山	0
	前田	0
FP	湯浅	3
	北風	2
	清水	1
	河内	0
	高杉	5
	吉岡	0
	市妙	0
	山本	0
	広政	4
	坂根	0
		15

（審・高橋 田村）

古川工（宮城）19（10—5、9—8）13 **北村山**

〔戦評〕前半、両チームともシュートが決まらず自分のリズムを出せないでいたが、7分過ぎ古川工・外崎のミドルが決まると序々に自分のペースを握かみ、庄司のミドルシュートが決まり始め、古川工の5点リードで終了。後半開始直後、北村山が速攻で3点連取して追いかけたが、ディフェンスが荒く退場者が続出して古川工の勝ちで終了した。

〔北村山〕

	氏名	得
GK	菅原	0
	今野	0
FP	高桑	1
	土屋	0
	斉藤拓	2
	斉藤新	2
	海藤	4
	安達	3
	西尾	1
	富樫	0
	国分	0
	押切	0
		13

〔古川工〕

	氏名	得
GK	門間	0
	藤原	0
FP	外崎	5
	嶋田	3
	浅野	4
	庄司	3
	三浦	0
	中鉢	0
	伊藤	0
	斉藤	0
	吉田	4
	滝田	0
		19

（審・中村 斉藤）

大分電波（大分）23（10—5、13—8）13 **市岐阜商**

〔戦評〕立ち上がりは互角のゲーム展開だったが、中盤から大分が多彩な攻撃で岐阜商のディフェンスを切りくずし、13—8で前半終了。後半に入っても、大分は自分のペースを守り確実に加点していった。岐阜商は大分の高さのあるディフェンスに攻め手を欠き反撃ならず。

〔市岐商〕

	氏名	得
GK	渡辺	0
	渡部	0
FP	冨田	6
	杉山	1
	栗田	0
	近藤	1
	上吉原	2
	長谷川	3
	水島	0
	鈴木	0
	加藤	0
	塩谷	0
		13

〔電波〕

	氏名	得
GK	鶴原	0
	増田	0
FP	渡部	2
	薬師寺	1
	前田	0
	入江	4
	工藤	1
	宇多村	3
	津野	0
	穴井	12
	楠浦	0
	山本	0
		23

（審・岡本 清水）

久工大附（福岡）27（14—5、13—6）11 **学法石川**

〔戦評〕前半中盤から久工大附がペースをつかみ、着々と加点し試合の主導権をつかんだ。一方、学法石川は久工大附の堅いディフェンスを破ることができず、逆に速攻を許し苦しい展開となった。後半も久工大附が多彩な攻めで大量リードを奪った。学法石川はGKが好守を見せたが、最後までペースをつかめず試合終了となった。

〔石川〕

	氏名	得
GK	本田	0
	荒川	0
FP	辻	0
	添田武	0
	小針	2
	藤田	3
	角田	1
	三瓶	1
	岡部	0
	遠藤	0
	矢吹	4
	添田貴	0
		11

〔久工大〕

	氏名	得
GK	中島	0
	坪根	0
FP	古賀	1
	柳	3
	田中	2
	植村	3
	山口	2
	江口	2
	川崎	7
	肥山	6
	井伊	1
	浜川	0
		27

（審・清水 太田）

市川 24（16—6、8—9）15 **四日市工**（三重）

〔戦評〕前半立ち上がり、市川のプレスディフェンスに攻めあぐんだ四日市だが、カットインやポストプレーで4点連取しリードする。しかし市川も粘りのある攻撃で序々に追い上げ、四日市工1点リードで前半終了。後半に入っても

〔四日市〕

	氏名	得
GK	吉川	0
	松本	0
FP	寺嶋	0
	青柳	2
	近俊	4
	岡	4
	服部	2
	楠井	0
	中村	3
	矢田	0
	国分	0
	坂下	0
		15

〔市川〕

	氏名	得
GK	柴内	0
	藤牧	0
FP	平川	1
	岡田	1
	吉田	0
	三宅	2
	松村	1
	近藤	7
	中野	0
	下西	5
	福田	5
	西谷	2
		24

（審・錦城 小越）

四日市工は、「守って速攻」の展開で点差を広げたが、市川はGK柴内の連続ナイスキーピングから、速攻が思うように決まり逆転勝ちした。

呉　港（広島）24〔13—6／11—5〕11 湯　沢

〔戦評〕前半、呉港はセット攻撃や相手のミスに乗じて得点を重ねていった。湯沢は、得意の速攻が得点に結びつかず11—5で折り返した。後半も立ち上がり呉港は、豊川、藤光を中心に得点を重ね、GKの好守もあり24—11で勝利を収める。湯沢の速攻は後半も見られなかった。

	〔湯沢〕	得
GK	照井	0
	進藤	0
FP	佐藤明	2
	鋳谷	1
	森田	0
	近江	2
	佐藤光	3
	高橋	3
	斉藤	0
	小松	0
	高橋	0
	木村	0
		11

〔審・田中 佐藤〕

得	〔呉港〕	
1	小玉	GK
0	川崎	
6	斉藤	FP
2	谷口	
6	中須賀	
2	川本	
4	豊川	
0	盛谷	
3	藤光	
0	中本	
0	川村	
0	福田	
24		

熊本市商（熊本）29〔15—7／14—1〕8 岩　井

〔戦評〕試合開始から熊本市商の激しい攻撃で一方的なゲーム展開になった。熊本は、松岡、加川、長田の主力3人の活躍が目についた。後半に入っても、熊本市商のリズムは崩れず得点を加えた。岩井は、パスミス、ディフェンスの動きが悪く本来の力は出しきれなかった。結果は29—8で熊本が勝利した。

	〔岩井〕	得
GK	金子	0
	高橋	0
FP	中村	3
	松並	1
	石塚	1
	荒井	2
	浅野	0
	浜野	1
	岡田	0
	風見	0
	篠塚	0
	飯田	0
		8

〔審・幸塚 矢田〕

得	〔熊本〕	
0	西浦	GK
0	村上	
1	松尾	FP
7	松岡	
5	加川	
3	長田	
3	米満	
3	益崎	
0	永井	
5	森山	
1	渡瀬	
1	岩崎	
29		

育　英 36〔17—8／19—8〕16 仙台東（宮城）

〔戦評〕立ち上がりから育英は、仙台東のディフェンスの甘さをついて、速攻やセットからのフェイント、ミドルシュートを決め、大差で前半終了。後半に入っても、育英は着実に得点を重ね、仙台東は本来の攻撃を取り戻すことが出きずに終った。

	〔仙台東〕	得
GK	佐藤	0
	菅原	0
FP	山田	2
	大内	4
	黒沼	0
	千田	0
	加藤	6
	高野	0
	桜田	0
	入谷	0
	加藤	1
	佐々木	3
		16

〔審・錦織 小越〕

得	〔育英〕	
0	西條	GK
0	水谷	
7	平岡	FP
6	伊藤	
5	上野	
6	田中	
6	高木	
0	森田	
0	守口	
3	北村	
0	清水	
3	大原	
36		

東岡山工 19〔12—8／7—7〕15 小山南（栃木）

〔戦評〕前半立ち上がり、小山南が先取点をあげるが、東岡山工も粘りを見せシーソーゲームとなる。お互いに得点をなかなか得られず7—7で前半を折り返す。後半開始早々、小山南が3連続得点をあげ、15分過ぎまでリードするが、小山南・雨宮の失格により東岡山工が追いつき、逆にペースをつかみ19—15で勝利を収める。

	〔小山南〕	得
GK	瀬間	0
	唐橋	0
FP	田中	2
	福島	6
	雨宮	3
	小林	1
	守角	1
	岡本	0
	橋本	2
	大内	0
	信末	0
	渡辺	0
		15

〔審・石川 工藤〕

得	〔東岡山〕	
0	影山	GK
0	吉良	
2	青江	FP
1	後藤	
3	岡田	
0	小松原	
7	道上	
0	山口	
6	松浦	
0	久保	
0	本澤	
0	海田	
19		

岡崎城西（愛知）25〔12—9／13—5〕14 高松商

〔戦評〕岡崎城西は、スタートから攻守に冴があり、ミドル、カットイン、ロングと思うようにシュートが決った。それに比べ高松商は、攻守ともに本来の力が出ず13—5で前半を終了した。後半に入っても、城西のペースは変わらず、特にディフェンスが良かった。高松商も最後までペースを取り戻そうと必死に頑張ったが届かず、悔が残る試合となった。

	〔高松商〕	得
GK	紺田	0
	平木	0
FP	西村	3
	久保田	0
	山田	0
	小川	0
	東山	4
	西塚	3
	竹川	1
	中野	0
	吉峰	3
	森	0
		14

〔審・田川 中島〕

得	〔岡崎〕	
0	小林	GK
0	蛯原	
4	深津	FP
2	河口	
0	浅沼	
6	丸田	
0	阿部	
2	簗瀬	
4	中村	
2	相木	
0	原	
5	柴田	
25		

桃山学院（大阪）17〔11—5／6—7〕12 日大明誠

〔戦評〕両チームとも、堅いディフェンスとスピードのある攻撃で一進一退を繰り返し、日大明誠が1点リードで前半終了。後半、桃山は市原のロングシュート、下山のPTで逆転しゲームの主導権を握った。両チームのGKの好守と最後までスピードのある好ゲームだった。

	〔明誠〕	得
GK	松本	0
	松下	0
FP	水越	0
	小沢	0
	秋山	0
	奥津	5
	浅野	6
	岸	0
	広野	0
	田坂	0
	市川	1
	功力	0
		12

〔審・小林 尾形〕

得	〔桃山〕	
0	田端	GK
0	福谷	
0	大野	FP
7	市原	
1	中瀬	
2	市村	
5	下山	
0	高橋	
0	中久喜	
2	白鳥	
0	鈴木	
0	河村	
17		

3回戦

横浜商工 37〔17—3／20—1〕4 米子東

〔戦評〕前半立ち上がりから横浜商工は、米子東のパス、キャッチミスや単調な攻撃に乗じ15連続得点し、大差で前半終了。後半に入っても、米子東は調子を取り戻す

ことが出きず、一方、横浜商工は手渡しパスからのカットインやスカイプレーが着実に決まり圧勝に終った。

〔米子東〕	得		得	〔横浜〕
野口	0	GK	0	本郷哲
稲田	0		0	戸辺
生田	1	FP	1	本郷隆
川端	0		9	西村
阪田	0		5	関根
大許	0		4	太刀川
田川	1		3	後藤
長谷	0		0	堀川
本池	2		1	沢田
宮辺	0		6	中村
山本	0		1	高橋
北野	0		7	高野
	4		37	

（審・工藤、横山）

浦和実 27（11−10、10−11、3−2、3−1）24 高岡向陵

〔戦評〕前半、浦和実は相手の反則で2本のPTで先取したが、高岡向陵も藪下、白川のミドルシュートで対抗、15分過ぎから良くシュートが決まったが、浦和実1点リードで終了。後半に入っても、互いに持ち味を出す好ゲームとなり21—21の同点で終了。延長に入り、力の高岡向陵に対して、うまさの浦和実が3点差で逃げ切った。

〔向陵〕	得		得	〔浦和実〕
井畠	0	GK	0	加藤
野崎	0		0	高橋康
藪下	6	FP	5	田村
藤坂	5		0	若杉
中西	2		7	二川
宮崎	1		0	高橋淳
高原	0		0	村沢
高橋	0		5	鈴木
白川	7		4	武井
河原	3		3	高尾
安川	0		3	羽白
西田	0		0	佐藤
	24		27	

（審・佐藤、林）

下松工 20（9−4、11−6）10 長崎日大

〔戦評〕前半立ち上がり下松工は、GK亀山の好守から速攻に結びつけ北風、広政が続けてシュートを決める。長崎日大は、下松の清水、広政らの切れのよいフェイントを守り切れずミドルシュートを許し、前半9—4で下松工がリードする。後半長崎日大は、野原の活躍で追い上げを計ろうとするが、下松工の堅いディフェンスにシュートチャンスが生まれず、結局20—10で下松工が勝利をつかんだ。

〔長崎日大〕	得		得	〔下松工〕
中野	0	GK	0	亀山
菅崎	0		0	前田
野原	4	FP	3	湯浅
松永	1		1	北風
横尾	0		3	清水
大石	0		0	河内
本田	0		6	高杉
本木	3		0	吉岡
本山	2		1	市妙
門口	0		0	山本
林	0		6	広政
川崎	0		0	坂根
	10		20	

（審・幸塚、矢田）

大分電波 27（14−11、13−8）19 古川工

〔戦評〕前半、古川工・庄司のミドルシュートで先取、大分電波・入江の右サイドシュートで返すという好ゲームで、15分過ぎ大分電波5点リードしたが、古川工もパスカットからの速攻と吉田のサイドシュートで盛り返し3点差で終了。後半に入ると、互いにミドルシュートの打ち合いとなり、大分電波・宇多村、穴井に対して、古川工・外崎、庄司がミドルシュートを決めたが、大分電波の勝利に終った。古川工の善戦が光った試合内容であった。

〔古川工〕	得		得	〔電波〕
門間	0	GK	0	鶴原
藤原	0		0	増田
外崎	8	FP	3	渡部
嶋田	0		4	薬師寺
浅野	2		4	前田
庄司	4		2	入江
三浦	0		0	工藤
中鉢	0		5	宇多村
伊藤	0		0	津野
斉藤	0		9	穴井
吉田	5		0	楠浦
滝田	0		0	山本
	19		27	

（審・上久保、北井）

久工大附 27（14−2、13−5）7 市川

〔戦評〕立ち上がりから、終始堅いディフェンスと速攻で得点を重ねる久留米に対し、市川は攻めがつながらず苦しい戦いとなる。GK柴内のナイスキーピングにもかかわらず、前半は14—2と久留米リードで折り返した。後半に入っても、市川は久留米の堅いディフェンスを切り崩せず、単発的にミドルシュートで追い上げを計るが、スピードの衰えない久留米の速い攻めについていけず、結局27—7で久留米が勝利した。

〔市川〕	得		得	〔久工大〕
柴内	0	GK	0	中島
藤牧	0		0	坪根
平川	2	FP	5	古賀
岡田	0		0	柳
吉田	0		3	田中
三宅	0		0	植村
松村	0		2	山口
近藤	2		3	江口
中野	0		6	川崎
下西	0		2	肥山
福田	1		2	井伊
西谷	2		4	浜川
	7		27	

（審・小林、照井）

熊本市商 23（13−9、10−9）18 呉港

〔戦評〕立ち上がり、お互いにノーマークをはずし20分まで雑な展開となる。その後、熊本が加川の速攻をきっかけにペースをつかみ前半4点差で終了。後半開始、熊本・益崎のロングで、呉も中須賀のサイドで応戦、11分永井の速攻で2点差につめ寄るが、15分過ぎより熊本の一方的な試合内容となるが、呉のGK小玉が熊本のノーマークPTを止め試合を盛り上げた。

〔呉港〕	得		得	〔熊本〕
小玉	1	GK	0	西浦
川崎	0		0	村上
斉藤	4	FP	5	松岡
谷口	2		3	加川
中須賀	4		1	長田
川本	3		1	米満
豊川	1		6	益崎
塩谷	0		0	永井
藤光	3		6	森山
中本	0		0	田中
川村	0		1	清田
福田	0		0	岩崎
	18		23	

（審・錦織、小越）

育英 33（17−9、16−10）19 東岡山工

〔戦評〕前半、立ち上がりは2—2まで一進一退となるが、地力に勝る育英は速攻に加えミドル、サイドと攻撃に幅があり着実に得点を重ねた。東岡山も道上のサイド

などで追いすがるものの、攻撃が単調な上ディフェンスも淡白で、育英17―9と8点リードで折り返した。後半に入っても育英は、速攻が冴え5連続速攻によるゴールを含めジリジリと差を広げ、結局33―19と大差で勝利を収めた。

得	〔東岡山〕		〔育英〕	得
0	影山	GK	西條	0
0	吉永	GK	水谷	0
2	青江	FP	平岡	3
4	後藤	FP	伊藤	6
2	岡田	FP	松岡	0
2	小松原	FP	上野	5
5	道上	FP	田中	9
0	山口	FP	高木	4
3	松浦	FP	森田	0
0	久保	FP	北村	4
0	本澤	FP	清水	2
1	海田	FP	大原	0
19				33

〔審・佐藤、鈴木〕

桃山学院19〔8―7 / 11―4〕11岡崎城西

〔戦評〕立ち上がり、岡崎が柴田のサイド、中村のミドルで2―0と好調なすべり出し、桃山は相手ミスからの速攻と下山のポストで同点とし、24分市原のロングで2点リード、終了直前岡崎がPTを決め桃山が1点リード。後半立ち上がり桃山が3点連取、ペースをつかみ、岡崎のパスミスをさそいカットより速攻で15分14―8とセフティリードとなり桃山の圧勝に終る。岡崎・中久喜、柴田の好プレーと最後まで全力を出し切ったプレーは好感がもてた。

得	〔岡崎〕		〔桃山〕	得
0	小林	GK	田端	0
0	蛯原	GK	福谷	0
1	深津	FP	大野	1
1	河口	FP	市原	2
0	浅沼	FP	中瀬	3
0	丸田	FP	市村	0
0	阿部	FP	下山	5
0	簗瀬	FP	高橋	3
4	中村	FP	中久喜	1
1	相木	FP	白鳥	3
0	原	FP	鈴木	1
4	柴田	FP	河村	0
11				19

〔審・岡本、清水〕

準々決勝

浦和実23〔10―9 / 13―7〕16横浜商工

〔戦評〕前半、浦和実のGK加藤の好守と堅いディフェンスにリズムをつかめない横浜商工に対し、浦和実は横浜商工のミスより逆速攻、田村のロングシュート、スカイプレーで常にリードを保ち10―9で前半終了。後半に入り、横浜商工がフォーメーションで点を重ね12―11とリードするが、浦和実は横浜商工の攻めに対し、読みも良く堅いディフェンスとGK加藤の好守から逆転、23―16で勝利を得た。

得	〔横浜〕		〔浦和実〕	得
0	本郷哲	GK	加藤	0
0	戸辺	GK	高橋	0
0	本郷隆	FP	田村	5
3	西村	FP	二川	1
2	関根	FP	大野	0
4	太刀川	FP	高橋	0
1	後藤	FP	村沢	0
0	堀川	FP	鈴木	3
0	沢田	FP	武井	2
2	中村	FP	高尾	4
0	高橋	FP	羽白	8
4	高野	FP	佐藤	0
16				23

〔審・岡本、清水〕

下松工22〔9―9 / 13―8〕17大分電波

〔戦評〕前半1分大分電波・入江のサイドシュートで先制したが、下松工はスピードのある走りを生かして割り込んだり、速攻で8分までに4―2と有利にゲームを展開した。下松工になかなか追いつけず苦しんだ大分電波は、20分過ぎにエース穴井が連続してミドルシュートを決め、9―9の同点に持ち込んで前半を終了した。後半、両チーム激しい点の取り合いになったが、8分から12分までに下松工は速攻やPTで4点を連取、主導権を握った。大分電波の反撃をGK亀山の好守でしのぎ、攻めては広政のミドルなどで突き放し、下松工が勝利を収めた。

得	〔電波〕		〔下松工〕	得
0	鶴原	GK	亀山	0
0	増田	GK	前田	0
3	渡部	FP	湯浅	3
1	薬師寺	FP	北風	3
0	前田	FP	清水	4
4	入江	FP	河内	0
1	工藤	FP	高杉	5
1	宇多村	FP	吉岡	0
0	津野	FP	市妙	3
7	穴井	FP	山本	0
0	楠浦	FP	広政	4
0	山本	FP	坂根	0
17				22

〔審・田村、斉藤〕

熊本市商20〔10―11 / 10―6〕17久工大附

〔戦評〕前半、一進一退の展開から始まり、10分過ぎから久留米が波に乗り5連続得点するなど7―3とリードするが、その後、熊本は久留米のミスをついて速攻などで追い上げを計り、1点差までつめ寄って前半を終了した。後半に入り、ディフェンスでペースがつかめない久留米に対し、熊本は益崎の好リードのもとに全員が良く走って得点につなげリードを広げた。途中から激しい雨の中での試合となり、両チームともにミスが続出したが、特に久留米にとっては、2点差でのPTノーマークをたて続けに落としたのが大変悔やまれる。

得	〔久工大〕		〔熊本〕	得
0	中島	GK	西浦	0
0	坪根	GK	村上	0
0	古賀	FP	松尾	0
0	柳	FP	松岡	4
2	田中	FP	加川	4
0	植村	FP	長田	0
3	山口	FP	米満	2
4	江口	FP	益崎	5
3	川崎	FP	永井	0
4	肥山	FP	森山	4
1	井伊	FP	清田	0
0	浜川	FP	岩崎	1
17				20

〔審・上久保、北井〕

桃山学院22〔13―6 / 9―11〕17育英

〔戦評〕前半開始早々、桃山学院・下山がPTを得て自ら先取点をあげるが、育英も田中が技巧的なシュートを決め1―1、桃山はGK田端の好守と育英のミスを速攻に結びつけ、着々と加点し、前半13―6と引き離した。後半中盤以降桃山の攻防に消極的なプレーが目立ち、育英が追い上げを図るが、前半の差が大きく響き22―17で桃山が逃げ切った。

得	〔育英〕		〔桃山〕	得
0	西條	GK	田端	0
0	水谷	GK	福谷	0
3	平岡	FP	大野	0
5	伊藤	FP	市原	5
0	上野	FP	中瀬	4
4	田中	FP	市村	5
4	高木	FP	下山	5
0	森田	FP	高橋	2
0	守口	FP	中久喜	0
1	北村	FP	白鳥	1
0	清水	FP	鈴木	0
0	大原	FP	河村	0
17				22

〔審・小林、照井〕

準決勝

下松工16〔7―7 / 9―6〕13浦和実

〔戦評〕力の下松対うまさの浦実という印象を受ける両チームだが、最初に得点したのが下松・広政のロングシュートであったが、その後は浦実が田村のロングシュートとポストで得点したのに対し、下松は速攻、ミドルで応戦し同点で前半を折り返す。後半、田村をマンツーされ動きの止まった浦実に対し、速攻とカットインで得点した下松が勝利を納めた。残念だったのは浦実のノーマークシュートミスが多く出たことである。

得	〔浦和実〕		〔下松工〕	得
0	加藤	GK	亀山	0
0	高橋	GK	前田	0
5	田村	FP	湯浅	5
0	若杉	FP	北風	2
2	二川	FP	清水	2
0	大野	FP	河内	0
0	村沢	FP	高杉	2
1	鈴木	FP	吉岡	0
1	武井	FP	市妙	0
1	高尾	FP	山本	0
2	羽白	FP	広政	5
1	佐藤	FP	坂根	0
13				16

〔審・大河原、池田〕

下松工対桃山学院の激しいチェック

桃山学院 16 〔6—8／10—7〕 15 熊本市商

〔戦評〕桃山学院・下山が正面にカットイン先取点をあげれば、熊本市商は桃山の逆速攻のパスミスを長岡が拾って同点。中盤まで桃山リードのゲーム展開であったが、9分から16分まで3名の退場者を出す間に熊本市商は、松岡や加川が決め逆転に成功、前半熊本市商2点リードで終了。後半立ち上がり桃山は、熊本市商のパスカットやGKの好守から3点を連取し再び逆転、その後一進一退のゲームとなったが、終了直前桃山・市村のミドルシュートが決まり、16—15で桃山が逃げ切った。

得	〔桃山〕		〔熊本〕	得
0	田端	GK	西浦	0
0	福谷	GK	村上	0
0	大野	FP	松尾	0
2	市原	FP	松岡	1
1	中瀬	FP	加川	1
2	市村	FP	長田	1
7	下山	FP	米満	2
2	高橋	FP	益崎	5
0	中久喜	FP	永井	0
2	白鳥	FP	森山	4
0	鈴木	FP	清田	0
0	河村	FP	岩崎	1
16		〔審・岡本 清水〕		15

決勝

下松工 17 〔7—11／10—4〕 15 桃山学院

〔戦評〕前半立ち上がり桃山は、下松工の一線防御をうまく乱し、市原からポスト下山へパスを通してPTを獲得、中瀬のミドルシュートも決まり2点リード。その後桃山に退場者が出るうちに下松工は3—3の同点とするが、桃山下山らのパスカットから速攻などで終始リードし11—7で折り返す。後半、桃山・市村のシュートが決まり圧勝するかに見えたが、下松工のGK亀山の好守と広政らのミドルシュートが要所で決まり出し、10分台で6点連取し13—12と逆転に成功、その後粘る桃山に対し下松工は、パスプレーにもリズムが出て17—15で逃げ切り栄冠を手中にした。

得	〔下松工〕		〔桃山〕	得
0	亀山	GK	田端	0
0	前田	GK	福谷	0
2	湯浅	FP	大野	0
1	北風	FP	市原	4
1	清水	FP	中瀬	1
0	河内	FP	市村	1
6	高杉	FP	下山	7
0	吉岡	FP	高橋	2
1	市妙	FP	中久喜	0
0	山本	FP	白鳥	0
6	広政	FP	鈴木	0
0	坂根	FP	河村	0
17		〔審・大河原 池田〕		15

女子

1回戦

昭和学院（千葉） 14 〔8—7／6—3〕 10 暁（三重）

〔戦評〕前半2分、昭和・細井がサイドから飛び込んで先制、すぐに暁・豊田のミドルで追いつき、しばらく得点が止まったが、その後、昭和のセットからのずらし、暁・中川のミドルなどで一進一退の好ゲームとなり、8—7昭和1点リードで前半終了。後半、昭和の粘り強いオフェンスにじりじりと崩され、暁4点差の惜敗。暁にとっては豊田のマンツーが痛かったが、GK内田の好守が光るゲームであった。

得	〔昭和〕		〔暁〕	得
0	林	GK	栗栖	0
0	佐藤	GK	内田	0
5	嶋本	FP	渥美	2
0	福田	FP	倭	0
3	中村	FP	豊田	2
4	星	FP	松田	0
1	田上	FP	岡	0
0	大野	FP	石原	0
1	細井	FP	野田	1
0	梅澤	FP	水谷	0
0	若林	FP	鈴木	1
0	阿部	FP	中川	4
14		〔審・照井 守屋〕		10

本庄（宮崎） 29 〔12—5／17—5〕 10 高知東（高知）

〔戦評〕立ち上がり、高知東が野島、萩原の得点で先行したが、その後攻め手を欠き得点できず、本庄は5分過ぎ廣瀬がペナルティースローを決めてからリズムをつか

得	〔本庄〕		〔高知東〕	得
0	長嶺	GK	長岡	0
0	坂田	GK	西川	0
0	川崎	FP	萩原	3
8	黒木	FP	大山	1
0	田中	FP	柳井	0
1	大生	FP	野島	1
0	出口	FP	上田	0
1	春光	FP	竹島	1
8	広瀬	FP	井上	2
4	染矢	FP	岩本	2
4	佐藤	FP	山本	0
3	赤木	FP	松下	0
29		〔審・矢田 幸塚〕		10

み、セットプレーで8連続ポイントをあげ12—5で折り返した。後半に入っても、本庄はスピードあるプレーで得点を重ね、高知東をつき放した。高知東も最後まで善戦したが、本庄のスピードについていけなかった。

小　杉（富山） 23 〔13—8 / 10—8〕 16 **国分実業**（鹿児島）

〔戦評〕立ち上がり、お互い持ち味を出しあい点の取りあいとなったが、10分過ぎから小杉・大前を中心とする多彩なセット力でリードを奪っていった。国分実もロング、ポストで対抗するがペースをつかめないまま前半を終えた。後半に入り、両チームとも気迫のあるプレーが続き、またGKの好守もあり、しまったゲームとなり、一進一退が続いていった。国分実にも十分チャンスはあったが、速攻などでミスが続き、点差が縮まらないまま初戦で涙をのんだ。

〔国分実〕	得		得	〔小杉〕
大井	0	GK	0	鳥倉
久木山	0	GK	0	広瀬
折尾	0	FP	6	下条
前田	4	FP	0	宮脇
重山	0	FP	0	梶谷
徳留	5	FP	0	片林
吉田紀	4	FP	0	石田
吉田佐	0	FP	7	島
岩元	2	FP	1	大郷
坂元	0	FP	1	川腰
田中	0	FP	8	大前
桑原	1	FP	0	市橋
	16		23	

（審・鈴木　佐藤）

彦根商（滋賀） 13 〔8—5 / 5—7〕 12 **群馬女短**（群馬）

〔戦評〕立ち上がり、両チームともシュートミスが目立ったが、6分過ぎから互いにセットからのポストシュートが決まり、彦根商が3点リードで前半終了。後半7分彦根・森が2回退場となり、10分に9—9の同点となった。その後シーソーゲームとなり、24分46秒PTで彦根が逃げ切った。

〔今治南〕	得		得	〔養老〕
中村	0	GK	0	大鹿
村上美	2	GK	2	徳永
村上明	1	FP	3	安藤
三宅	0	FP	1	増田
広瀬	0	FP	2	古沢
正岡	1	FP	2	佐藤
竹中	5	FP	0	大杉
河上	0	FP	0	藤井
小沢	0	FP	2	松崎
山崎	0	FP	0	水谷
村上	0	FP	0	小川
田窪	0	FP	0	山田
	9		12	

（審・中島　田川）

養老女商（岐阜） 12 〔9—5 / 3—4〕 9 **今治南**（愛媛）

〔戦評〕前半は養老女の走力とセットプレーが勝り9—5で折り返した。後半に入ってから、今治南が速攻、ポストプレーなどで追い上げを図ったが、確実な決め手を欠き、点差を縮めることができなかった。

〔九州女〕	得		得	〔大曲農〕
石橋京	0	GK	0	武藤
木村	0	GK	0	伊藤
中野	8	FP	4	高橋さ
石橋啓	2	FP	7	千田
戸田	1	FP	2	中村
安野	0	FP	3	高橋弘
鶴	0	FP	2	板谷
山川	1	FP	0	小野寺
勝見	0	FP	1	細井
長嶺	0	FP	0	小友
小林	3	FP	0	田村
木須	0	FP	0	高橋初
	15		16	

（審・鈴木　佐藤）

大曲農（秋田） 16 〔13—8 / 3—7〕 15 **九州女子**（福岡）

〔戦評〕スピーディーな攻防で立ち上がりより着実に両チームとも点を取りあった。10分を過ぎたあたりから、大曲農の粘り強いディフェンスとGKの好守から速攻がさえリードを奪った。後半、大曲農の攻めが単調になり、九州女が必死の追い上げをみせ、しっかりペースをつかみ、終了5分前に同点に追いついたが、その後、決め手を欠き2分前に速攻による決勝点を奪われてしまった。

〔江南〕	得		得	〔栃木女〕
今泉	0	GK	0	石塚
加賀田	0	GK	0	渡辺
磯部	5	FP	0	荒井
須貝	7	FP	0	塩田
伊佐	0	FP	4	柏崎
永井	0	FP	5	高橋
長谷川	0	FP	0	寺内
小髪	0	FP	1	和久井
木村	2	FP	3	佐伯
川崎	0	FP	2	臼井
関	0	FP	4	松山
		FP	4	石田
	14		23	

（審・小越　錦織）

栃木女（栃木） 23 〔15—7 / 8—7〕 14 **新潟江南**（新潟）

〔戦評〕前半10分まで栃木女が1点をリードしていた。相手のパスミスから逆速攻のシュートで2点差が開き、栃木女のペースとなり前半8点差で終了。

後半に入るとお互いの持ち味を出したゲーム展開となったが、新潟江南は前半の得点差を縮めることができず、23—14でゲームを終了した。

〔山陽女〕	得		得	〔函大付〕
鷲見	0	GK	0	佐藤
藤間	0	GK	0	竹原
川口	2	FP	7	森山
松本	0	FP	1	長谷川
村実	0	FP	0	桜井
王野	1	FP	2	岡崎
入江	1	FP	0	丸山
藤原	0	FP	0	松坂
田中	0	FP	0	小島
浦川	1	FP	4	三輪
三宅	0	FP	0	石田
飯田	0	FP	0	田井中
	5		14	

（審・中島　田川）

函大付女（北海道） 14 〔8—3 / 6—2〕 5 **山陽女**（広島）

〔戦評〕両チームとも良く鍛えられた好チームの印象をもったが、チャンスを確実に得点に結びつけた函館女が前半8—3とリードした。後半に入って山陽の反撃が期待されたが、セットプレーが中央攻撃だけの単調なものになり、逆に函館に得点を許し完敗した。7得点をあげた函館・森山の冷静なプレーが光った。

〔光南〕	得		得	〔城北〕
中村	0	GK	0	加藤
清武	0	GK	0	瀧下
藤井	1	FP	1	山平
森	1	FP	1	青島
出原	1	FP	5	川島
高塚	4	FP	5	柴戸
小倉	4	FP	3	柿下
吉川	0	FP	0	新井
西岡	0	FP	0	岩石
山口	0	FP	3	海野
西村	0	FP	0	加納
矢野	0	FP	0	萱津
	11		18	

（審・田村　高橋）

城　北（静岡） 18 〔8—5 / 10—6〕 11 **玉野光南**（岡山）

〔戦評〕前半、玉野光南、城北ともよく守り、攻めが苦しい状況でロングシュートを打つ展開となった。そうした中、守りから切りかえ速く攻めた城北が、川島、柿下のシュートで引き離し、3点差までリードを広げた。後半に入り、城北が加点するが、光南もフェイントや平行パスからのずらしで食い下がった。中盤も城北の速攻、光南のポストプレーが決まり得点を重ねたが、ディフェンスの足が

〔佐久〕	得		得	〔古川商〕
奥深山	0	GK	0	門脇
田中	0	GK	0	伊藤路
千原	0	FP	2	門間
井上	0	FP	1	斉藤
藤沢	1	FP	0	渋谷
田辺	1	FP	3	阿部
酒井	1	FP	2	栗田
佐藤	2	FP	9	伊藤由
船坂	2	FP	0	田村
千原	1	FP	0	佐藤
志村	0	FP	1	高橋
		FP	0	菅原
	8		18	

（審・石川　工藤）

よく動いた城北が、徐々に点差を広げて勝ちを収めた。

古　川　商（宮城） 18 〔11—2 / 7—6〕 8 **佐　久**（長野）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともパスミス、シュートミスが

〔群女短〕	得		得	〔彦根商〕
神山	0	GK	0	山崎
千葉	0	GK	0	渡辺
小川	1	FP	2	馬場
高山	0	FP	1	向田
永田	7	FP	4	小松
神津	2	FP	3	森
発地	0	FP	2	奥村
坂田	1	FP	0	丸山
小池	0	FP	0	宮尾
美才治	1	FP	0	藤木
堀口	0	FP	0	富江
井上	0	FP	0	田中
	12		13	

（審・上久保　北井）

多く7分間も無得点の状態が続いた。最初の得点は古川商・伊藤のサイドシュート、このシュートにより古川商は固さがとれシュートが入りだした。一方、佐久は散発的にシュートを入れて前半を終了。後半に入ってもシュートミスが目立ったが、前半の貯金で古川商が勝利をものにした。

江東商 27〔15—4、12—8〕12 那賀
（東京）　（和歌山）

〔戦評〕前半より、江東商が速攻にセットに多彩な攻撃をくり広げ終始リード。那賀も田宮を中心に長谷川のロングなどで反撃するが、攻守に勝る江東商が29—12で勝利をものにする。

	〔江東商〕	得	〔那賀〕	得
GK	山田弥	0	古閑	0
GK	古山	0	山崎	0
FP	水井	0	田宮	4
FP	永尾	2	長谷川	5
FP	石原	8	柏木	0
FP	和久田	3	中東	0
FP	大澤	0	五前	1
FP	関	6	岡田	0
FP	山田か	3	嵐	0
FP	大内	2	小路	1
FP	根本	1	飯野	0
FP	水落	4	金岡	1
		29		12

〔審・田中、伊藤〕

高松商 18〔8—3、10—6〕9 青森中央
（香川）　（青森）

〔戦評〕パスミスより青森が先取点、高松商・熊野のミドルシュートで同点と、両チームとも上々のすべり出し。しかし、5分、9分と青森はPTをおとし、高松商は5分、11分、16分とPTを確実に決め、ペースをつかみ試合を一方的にした。

	〔高松商〕	得	〔青森〕	得
GK	武田	0	前田	0
GK	木村	0	成田	0
FP	熊野	2	花田	5
FP	谷本	4	清川	1
FP	五ノ坪	2	相馬寿	2
FP	松本	3	福井	0
FP	唐渡	2	鹿内	0
FP	磯崎	0	小笠原	0
FP	山田	4	相馬智	0
FP	青梅	0	木村	0
FP	森岡	0	嶋中	0
FP	山下	1	佐藤	0
		18		9

〔審・佐藤、林〕

山梨 18〔6—5、12—2〕7 城北
（山梨）　（徳島）

〔戦評〕前半は、山梨、城北ともセットプレー中心の攻撃であったが、パスミス、シュートミスが目立ち、6—5の低い点数で前半を終了。後半、山梨の守りを城北が攻めきれないのに対し、山梨はセットプレーのポスト、サイドシュートを確実に決めて勝利をものにした。

	〔山梨〕	得	〔城北〕	得
GK	三森	0	中口	0
GK	中村	0	田村	0
FP	姫野	8	西	1
FP	村田	0	宮本	0
FP	雨宮友	0	溝渕	1
FP	深澤	0	中岡	4
FP	佐藤	3	谷田	1
FP	宮原	4	坂東	0
FP	平塚	1	祁答院	0
FP	松土	0	阿部	0
FP	雨宮つ	0	武田	0
FP	望月	2	野田	0
		18		7

〔審・大河原、池田〕

小松商 21〔9—5、12—8〕13 具志川
（石川）　（沖縄）

〔戦評〕前半、具志川・高嶺のステップシュートで先制するが、小松商はすぐフォーメーションで対抗する。その後、両チームのGKの好守で一進一退をくり返す。15分過ぎ小松商・坂井の連続3本のサイドシュートで9—5とリードし前半を折り返す。後半、具志川が連続得点をあげ2点差まで追い上げるが、15分過ぎから小松商の速攻、西川のロングが決まり21—13で小松商が勝利を収めた。

	〔小松商〕	得	〔具志川〕	得
GK	宇野	0	門口	0
GK	伴	0	横田	0
FP	西	1	吉里	2
FP	山口	4	栄野川	0
FP	西川	3	兼城	2
FP	野沢	4	又吉	0
FP	山岸	0	比屋根	3
FP	上出	2	与古田	0
FP	中居	2	照屋	0
FP	坂井	5	徳田	1
FP	早崎	0	上地	0
FP	山崎	0	高嶺	5
		21		13

〔審・田中、伊藤〕

明倫 17〔10—2、7—6〕8 生駒
（神奈川）　（奈良）

〔戦評〕スピードとパワープレーで勝る明倫の圧勝である。前半、GKが良く守っていただけに、生駒の連続ミスが残念であった。

	〔明倫〕	得	〔生駒〕	得
GK	岡田	0	伊藤	0
GK	野地	0	岩野	0
FP	村山	4	米田	2
FP	小荒井	4	植松	2
FP	本郷	6	新田	2
FP	桑原	2	堀内	1
FP	高橋	0	中平	1
FP	小川	0	松本	0
FP	宇都	1	坂下	0
FP	手柴	0	木村	0
FP	新井	0	池田	0
FP	田代	0	若杉	0
		17		8

〔審・藤原、渡辺〕

盛岡第二 26〔13—2、13—10〕12 佐賀女
（岩手）　（佐賀）

〔戦評〕佐賀・糸山のロングシュート、盛岡二・村山のカットインでスタート。その後、両チームの点の取りあいになったが、盛岡二が3点リードで前半を終了。後半に入っても、盛岡二の走力が衰えず速攻で着々と加点。盛岡二のGK富田のナイスキーピングと速攻が目立った試合であった。

	〔盛岡二〕	得	〔佐賀女〕	得
GK	富田	0	久保	0
GK	佐藤	0	江下	0
FP	丹羽	1	平野律	3
FP	高橋	3	岩井	3
FP	藤沢	5	糸山	2
FP	吉田	0	平野佐	4
FP	小野	0	福地	0
FP	工藤	8	津山	0
FP	北村	4	野田	0
FP	千葉	2	大塚	0
FP	及川	3	武富	0
FP	佐藤	0	富永	0
		26		12

〔審・尾形、小林〕

2回戦

宣真 16〔8—5、8—8〕13 昭和学院
（大阪）

〔戦評〕優勝候補同士の試合らしく、前半は互角の展開となる。最初に得点したのは昭和・中村だが、宣真も木口にマンツーをかけられながらも得点を重ねる。

後半も一進一退のゲームとなるが、16—13で宣真がせり勝って勝利を収めた。昭和の7本のノーマークシュートミスが最後まで影響した。

〔昭和〕	得
林	0
佐藤	0
嶋本	0
福田	0
中村	6
星	4
田上	0
大野	0
細井	2
梅澤	0
若林	0
阿部	1
	13

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・上久保　北井）

得	〔宣真〕
0	上田
0	進藤
4	稲次
2	木口
3	荒川
0	水田
3	関
3	中里
0	小野
1	橋本
0	大舘
0	野村
16	

華陵（山口）18 〔10—9、8—5〕 14 本庄

〔戦評〕前半から両チームともミスが目立ち得点がなかった。しかし、華陵は、ペナルティーからペースをつかみ得点を重ねた。その後、本庄もややペースをつかみかけ、ポスト、ロングシュートが決まり10—9と1点差まで追い上げた。後半に入り、華陵にスピードがでて速攻が決まり、それに比べ本庄は相変らずミスが多く、結果は18—14で華陵が勝利を飾った。

〔本庄〕	得
長嶺	0
坂田	0
川崎	0
黒木	2
田中	0
大生	0
出口	0
春元	0
広瀬	7
染矢	2
佐藤	3
赤木	0
	14

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・藤原　渡部）

得	〔華陵〕
0	嶋
0	河浜
4	小林
1	世良
5	田村
0	野田
5	面木
3	重国
0	近藤
0	若狭
0	日坂
0	鈴木
18	

小杉 22 〔10—7、12—7〕 14 境（鳥取）

〔戦評〕〔戦評〕立ち上がり、小杉はポストプレー主体の攻撃を再三仕掛けるものの、マークのきつい境のディフェンスを突破できず、パスミスなどから速攻に結びつけられ、7分までPT2本を含む3点を連取される。小杉・大郷がサイドから連取し3—2、その後、境は度々のノーマークシュートチャンスを落とし攻撃リズムも悪くなる。小杉はパスカットなどから速攻に転じ16分台で逆転に成功10—7で折り返した。後半、境の立花の活躍もあったが、小杉の勢いが衰えず22—14で逃げ切った。

〔境〕	得
新谷	0
川部	0
後藤	8
立花	2
遠藤	0
板倉	1
足立	0
根平	0
阿部	0
高垣	0
藤堂	0
植田	3
	14

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・小杉　境）

得	〔小杉〕
0	島倉
0	広瀬
2	下条
0	宮脇
0	梶谷
0	片林
2	石田
3	島
3	大郷
3	川腰
9	大前
0	市橋
22	

彦根商 17 〔9—7、8—4〕 11 北村山（山形）

〔戦評〕前半立ち上がり、彦根商はサイドとポストでペナルティースローをもらい、森が確実に決めて先行する。一方の北村山もサイド、速攻で得点するが、守りの乱れから相手に5本のペナルティースローを与え9—7で前半を終了。後半、足の止まった北村山に対し、彦根商半速攻で得点を加え17—11で終了した。

〔北村山〕	得
小川	0
折原	0
三浦	1
庄司	0
落合	1
高嶋	0
星川	4
阿部	3
佐藤	0
斉藤	2
石井	0
戸村	0
	11

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・佐藤　鈴木）

得	〔彦根商〕
0	山崎
0	渡辺
2	馬場
5	向田
0	小松
6	森
1	奥村
3	丸山
0	宮尾
0	藤木
0	田中
0	吉川
17	

水海道二（茨城）26 〔13—5、13—5〕 10 養老女商

〔戦評〕水海道二が実力通りに力を出し、養老女商の攻撃を軽くかわし一方的に13—5とリードした。後半に入っても、水海道二は攻撃の手を休めず、芦ヶ谷、高橋のシュートを中心に加点した。養老女商はディフェンスの弱さが出た。佐藤のシュートで反撃したが及ばず26—10で敗退した。

〔養老〕	得
大鹿	0
山田	0
徳永	1
安藤	0
増田	1
古沢	2
佐藤	4
大杉	1
藤井	0
松崎	0
水谷	0
小川	1
	10

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・藤原　渡部）

得	〔水海道〕
0	柴
0	鈴木裕
1	軽部
1	染谷
6	高橋
1	猪瀬
5	芦ヶ谷
5	鈴木智
0	森
0	日高
5	野口
2	岡木
26	

大曲農 32 〔16—6、16—7〕 13 東陵（京都）

〔戦評〕立ち上がり、大曲農・千田のカットインが決まり先取点をあげるや、一方の東陵は大江のミドルからのシュートで1—1となる。大曲農の高いディフェンスの壁とプレスディフェンスで東陵は攻めにあせりが見え、パスミスやオーバーステップから速攻に結びつけられ、中盤以降大曲農の一方的な展開となり前半16—6で終了する。後半も大曲農GK武藤の好守から中村が速攻で決めリード、攻撃リズムの崩れた東陵に対して大曲農は走りまくり、32—13の大差で勝利をものにした。

〔東陵〕	得
浜田	0
土屋	0
林	0
落合	4
桜井	0
藤原	0
大江	5
葛西	2
高地	2
上田	0
黄瀬	0
友渕	0
	13

GK（1・2）　FP（3〜12）　（審・太田　清水）

得	〔大曲農〕
0	武藤
0	伊藤
6	高橋さ
7	千田
4	中村
7	高橋弘
5	板谷
0	小野寺
1	細井
1	小友
0	田村
1	高橋初
32	

栃木女 16 〔8—5、5—8、2—1、1—0〕 14 聖和女（長崎）

〔戦評〕前半立ち上がり、両チームともに動きに固さが見られたが、聖和女の攻撃の甘さをついて、栃木女が速攻で得点を重ね8—5で前半を折り返す。後半になると聖和にリズムが出はじめ、半速攻からのポスト、サイド攻撃で追い上げ13—13で延長へ。延長になると栃木女・高橋の活躍で16—14で勝利。

	〔聖和〕	得	〔栃木女〕	得
GK	稲佐	0	渡辺洋	0
GK	鮎川	0	渡辺弘	0
FP	宮地	1	荒井	0
FP	石井	2	塩田	1
FP	永瀬	7	柏崎	2
FP	山口清	3	高橋	5
FP	松尾	0	寺内	0
FP	田鹿	0	和久井	0
FP	松下	0	佐伯	0
FP	野元	0	臼井	5
FP	山口範	1	松井	1
FP	篠原	0	石田	2
審・上久保 北井		14		16

聖和学園（宮城）18〔12—1, 6—6〕7 函大付女

〔戦評〕前半は、聖和学園がシード校の実力を見せつけた。函大付女は全くリズムをつかめず12—1と大きくリードを許した。後半は、函大付女もリズムをつかみ岡崎、森山のシュートで6—6と引き分けた。しかし、前半のリードが大き過ぎ追いつくまでには至らなかった。聖和の後半のもたつきはあったが、聖和の圧勝に終った。

	〔函大付〕	得	〔聖和〕	得
GK	佐藤	0	庄司	0
GK	竹原	0	今内	0
FP	森山	3	小田嶋	1
FP	長谷川	1	目黒	6
FP	桜井	0	三嶋	4
FP	岡崎	2	山口	2
FP	丸山	0	石垣	2
FP	松坂	0	宍戸	0
FP	小島	1	佐藤	0
FP	三輪	0	沼倉	0
FP	石田	0	藤田	2
FP	田井中	0	八重樫	1
審・中島 田川		7		18

熊本女商 20〔10—5, 10—6〕11 静岡城北（静岡）

〔戦評〕前半の立ち上がり、両チームとも動きに固さが見られたが、16分過ぎから熊本女・鶴田の連続得点などもあり、10—5で折り返した。後半は、両チームとも速いパス回しからの攻撃で点数の取り合いとなった。10分過ぎより実力に勝る熊本女が速攻、パスカットなどで点数を重ね、20—11と勝利を収めた。

	〔城北〕	得	〔熊本女〕	得
GK	加藤	0	岩本	0
GK	瀧下	0	森崎	0
FP	小平	0	高洲	2
FP	青島	1	森下	2
FP	川島	5	田中	7
FP	柴戸	2	鶴田	6
FP	柿下	1	日坂	1
FP	新井	0	山田	0
FP	岩石	0	田中	2
FP	海野	1	松村	0
FP	加納	0	長嶺	0
FP	萱津	1	東	0
審・照井 守屋		11		20

浦和実（埼玉）23〔12—4, 11—6〕10 古川商

〔戦評〕前半、浦和実の多彩な攻撃に対して、古川商が続けて2本PTを落として同点に追いつけず、浦和実のリズムに乗った攻撃で終了。後半になっても、古川商の攻撃は単調なリズムで終始して、浦和実のディフェンス力が目につく試合内容で終了した。

	〔古川商〕	得	〔浦和実〕	得
GK	門脇	0	山崎	0
GK	伊藤路	0	帰山	0
FP	門間	0	浅田	4
FP	斉藤	2	岩村	5
FP	渋谷	0	小椋	7
FP	阿部	1	伊藤	3
FP	栗田	3	浅子	2
FP	伊藤由	3	三角	2
FP	田村	0	鈴木	0
FP	佐藤	0	大石	0
FP	高橋	1	金子	0
FP	菅原	0	竹花	0
審・林 佐藤		10		23

江東商 12〔5—4, 7—6〕10 福井商（福井）

〔戦評〕両チームとも攻めに決め手がなく、シュートチャンスがなかなか得られなかった。江東商は相手ミスから速攻で、福井商は前半終了間際小林のシュートで1点差まで追い上げ、5—4江東商リードで前半終了。後半、一時は福井商が逆転したが、再三のシュートミスで点差を広げることができなかった。逆に江東商はチャンスを確実にものにして、中盤以降試合をリードし、そのまま逃げ切った。

	〔福井商〕	得	〔江東商〕	得
GK	小林美	0	山田弥	0
GK	森	0	古山	0
FP	村上	7	水井	0
FP	田中	0	永尾	2
FP	畑	0	石原	6
FP	出口	0	和久田	1
FP	倉臼	0	大澤	0
FP	小林さ	1	関	2
FP	川合	0	山田か	0
FP	山崎	2	大内	0
FP	宮本	0	根本	0
FP	斉藤	0	水落	1
審・石川 工藤		10		12

佐賀関（大分）21〔10—7, 11—11〕18 高松商

〔戦評〕序盤、山田のミドル、ロングでリードした高松商だったが、次第に足が止まり、逆にスピードある攻撃から吉永のサイド、ポストシュートで同点とした佐賀関がリズムをつかみ、実川の4連続ゴールなど3点リードで折り返した。後半は一進一退の展開ながらロングシュートを打てる佐賀関がジリジリと差を広げ、谷本のポストシュート、PTなどで追い上げを図る高松商を振り切り勝利を収めた。

	〔高松商〕	得	〔佐賀関〕	得
GK	武田	0	吉田	0
GK	木村	0	大本	0
FP	熊野	4	吉永	7
FP	谷本	7	湯浅	0
FP	五ノ坪	0	実川	5
FP	松本	2	冨松	4
FP	唐渡	0	上野	1
FP	磯崎	0	松本	4
FP	山田	3	上野	0
FP	青梅	0	関谷	0
FP	森岡	0	竹田	0
FP	山下	2	姫野	0
審・工藤 横山		18		21

郡山女（福島）16〔5—2, 11—4〕6 山梨

〔戦評〕郡山女、山梨ともに立ち上がり、固さが見られミスの多い展開となりロースコアでゲームが進んだ。郡山女は山梨のミスから速攻で加点し前半を5—2とリードした。山梨はGKの積極的な守りが目についたが、セットオフェンスでのボールのつながりが悪く点に結びつかない。後半、両チームとも動きがよくなり点が伸びたが、郡山女は今野のミドルや速攻などで着実に差を広げ勝利を収めた。

	〔山梨〕	得	〔郡山女〕	得
GK	三森	0	工藤	0
GK	平山	0	安田	0
FP	姫野	1	岡部	1
FP	村田	0	小林	1
FP	雨宮	0	大河原	2
FP	深澤	0	佐藤	0
FP	佐藤	0	今野	3
FP	宮原	3	横田	1
FP	田口	0	斉藤	1
FP	平塚	1	千葉	1
FP	松土	0	高田	5
FP	望月	1	伊藤	1
審・林 佐藤		6		16

小松商 15〔3—6, 8—5, 2—1, 2—2〕15 夙川学院（兵庫）

〔戦評〕開始早々から両チームとも気迫のこもった好ゲームを展開した。夙川が大井のシュートでリードを奪い6—3で前半終了。小松商はPT3本をはずしたのが惜しまれる。後半開始小松商が速攻3本で追いつき一進一退のゲームを展開した。中盤過ぎから小松商がリードを奪い、有利な試合運びをした。しかし、残り1分で夙川が再び追いつき延長戦に入る。延長戦では夙川の痛いミスに突け込み、小松商が2点リードを奪いそのまま逃げ切った。

	〔夙川〕	得	〔小松商〕	得
GK	平塚	0	宇野	0
GK	中井	0	伴	0
FP	藤原	0	西	1
FP	大井	6	山口	4
FP	田淵	1	西川	1
FP	財田	3	野沢	2
FP	田口	1	山岸	0
FP	碇	0	上出	1
FP	中尾	3	中居	0
FP	巽	0	坂井	3
FP	小山	0	早崎	3
FP	柏木	0	山崎	0
審・守屋		14		15

明倫 18〔11—4, 7—5〕9 松江市女（島根）

〔戦評〕前半、スピードに勝る明倫は速攻に小荒井、宇都のミドル

シュートをおりまぜ着実に得点を重ねた。後半に入り、控えのメンバーと交替させたことでリズムが乱れた明倫に対して、松江も速攻などで追いすがるが、最後は明倫のキャプテン本郷を中心とする固い守りを崩せず涙をのんだ。

	〔松江〕	得	〔明倫〕	得
GK	竹内	0	岡田	0
GK	石田	0	野地	0
FP	野津	2	村山	5
FP	桑谷	4	小荒井	3
FP	釜屋	0	本郷	6
FP	渡部	1	桑原	0
FP	藤本	1	高橋	0
FP	大河原	1	小川	0
FP	吉岡	0	宇都	4
FP	竹谷	0	手柴	0
FP	塩野	0	高橋い	0
FP	梅本	0	目黒	0
		9		18

〔審・幸塚 矢田〕

名短付（愛知）14〔5―5 9―3〕8盛岡第二

〔戦評〕前半、開始直後盛岡二・藤沢のポストプレーで先制、以後しばらく盛岡二ペース、8分に名短付が山川の割り込みで同点に追いついたが、両チーム気迫のこもったディフェンスでロースコアの展開となった。20分で名短付5―2と3点リードしたが、盛岡二はPTと速攻で前半5―5で終了。後半2分までに名短付2点連取して固さが取れ、以後着実に加点し名短付ペース、盛岡二もGK富田の好守で食い下がったが14―8で終了。盛岡二の健闘が光った。

	〔盛岡二〕	得	〔名短付〕	得
GK	富田	0	平山	0
GK	佐藤	0	洞口	0
FP	丹羽	1	山田	6
FP	高橋	0	飯田	0
FP	藤沢	2	武藤	1
FP	吉田	0	加藤	0
FP	小野	0	鈴木	0
FP	工藤	4	川口	0
FP	北村	1	新地	0
FP	千葉	0	梶田	0
FP	及川	0	山川	5
FP	佐藤	0	安田	2
		8		14

〔審・田村 斉藤〕

3回戦

宣真15〔3―8 2―4〕12華陵

〔戦評〕華陵は開始直後サイドシュートで先制、以後8分までにPT、サイドで3―0とリードした。宣真は今一つ動きが固く9分に割り込んで1点を返したものの、2点目をあげる16分までのノーゴールが痛い。チャンスにミスやミドルシュートがポストに当たる不運も続き、華陵のディフェンスをなかなか崩せない。

後半、宣真は木口のミドルを中心に気迫のこもった攻撃で追いかけ、守勢にまわった華陵に16分とうとう追いつき逆転勝ちをした。

	〔華陵〕	得	〔宣真〕	得
GK	嶋	0	上田	0
GK	河浜	0	進藤	0
FP	小林	3	稲次	2
FP	世良	2	木口	7
FP	田村	2	荒川	0
FP	野田	1	水田	2
FP	面木	2	関	1
FP	重国	2	中里	0
FP	近藤	0	小野	0
FP	若狭	0	橋本	0
FP	米谷	0	大舘	3
FP	日坂	0	野村	0
		12		15

〔審・藤原 渡部〕

彦根商21〔9―7 12―8〕15小杉

〔戦評〕前半5分まで小杉は、彦根商のディフェンスに対して攻めきれず単純な攻撃となる。そのすきをついて彦根商は、馬場のパスカットから速攻に展じ3点連取しリードする。小杉は中盤以降に、大前のミドルシュートや島のカットインからのシュートが決まり出し近差で折り返した。後半、彦根商は小杉のミスをすかさず速攻に結びつけ、またPTを得ては森が確実に決め21―15で終了した。

	〔小杉〕	得	〔彦根商〕	得
GK	島倉	0	山崎	0
GK	広瀬	0	渡辺	0
FP	下条	1	馬場	4
FP	宮脇	0	向田	3
FP	梶谷	0	小松	3
FP	片林	0	森	10
FP	石田	1	奥村	1
FP	島	4	丸山	0
FP	大郷	3	宮尾	0
FP	川腰	0	藤木	0
FP	大前	6	冨江	0
FP	市橋	0	田中	0
		15		13

〔審・大河原 池田〕

大曲農13〔7―7 6―4〕11水海道二

〔戦評〕大曲農、水海道二、攻撃の似たチーム同士の対戦となったが、大曲農がミドル、割り込みなどにより4分までに3―1とリードし、ゲームの主導権を握るかに見えた。その後水海道二も高橋を中心にじわじわと追い上げ、21分ついに同点、23分に高橋のミドルで逆転に成功した。しかし、大曲農もPTを成功させ再び7―7同点で前半終了となった。後半も水海道二は、ポストへのパスを読まれて苦しい展開、数少ないシュートチャンスもミスが目立ち生かせなかった。大曲農が効果的に速攻を決め逃げ切った。

	〔水海道〕	得	〔大曲農〕	得
GK	柴	0	武藤香	0
GK	鈴木裕	0	伊藤	0
FP	軽部	1	高橋さ	3
FP	染谷	0	千田	2
FP	高橋	7	中村	0
FP	芦ヶ谷	1	高橋弘	6
FP	鈴木智	1	板谷	2
FP	森	0	小野寺	0
FP	日高	0	細井	0
FP	野口	1	小友	0
FP	岡本	0	高橋初	0
FP	大村	0	武藤奈	0
		11		13

〔審・中島 田川〕

聖和学園15〔7―6 8―3〕9栃木女

〔戦評〕前半立ち上がり、栃木女が先取点を入れるが、聖和の堅い守りにより得点できない状態が10分間、その間聖和はポスト、サイド、ロングシュートで得点を重ねる。ところが、聖和も後半残り10分間ノー得点、逆に栃木女が速攻などで追い上げ7―6で折り返す。

	〔栃木女〕	得	〔聖和〕	得
GK	渡辺洋	0	庄司	0
GK	渡辺弘	0	今内	0
FP	荒井	0	小田嶋	0
FP	塩田	2	目黒	4
FP	柏崎	2	三嶋	2
FP	高橋	4	山口	2
FP	寺内	0	石垣	1
FP	和久井	0	宍戸	0
FP	佐伯	0	佐藤	0
FP	臼井	0	沼倉	0
FP	松山	0	藤田	3
FP	石田	1	八重樫	3
		9		15

〔審・田村 斉藤〕

後半、聖和がややリズムを取り戻し得点を重ねたのに対し、栃木女は3点しか入れることができず、15—9で聖和が勝利を収めた。

熊本女商16〔11—6, 5—5〕11浦和実

〔戦評〕前半試合開始早々、熊本女商は鶴田のサイド、田中のPTで2点先取し好スタートを切った。浦和実は5分後伊藤のサイド、ミドルで同点に追いついた。しかし、熊本女・田中のミドル、ロングシュートがたて続けに決まり、前半は11—6で熊本女がリードした。後半に入ると、両チームのミスが多くなり得点が入らない試合展開になり5—5で終了した。前半のリードを守り切った熊本女が16—11で勝利した。

	〔浦和実〕	得	〔熊本女〕	得
GK	山崎	0	岩本	0
GK	帰山	0	森崎	0
FP	浅田	1	高洲	1
FP	岩村	1	森下	3
FP	小椋	3	田中里	8
FP	伊藤	4	鶴田	2
FP	浅子	0	日坂	1
FP	三角	2	山田	0
FP	鈴木	0	田中恵	1
FP	大石	0	松村	0
FP	金子	0	長嶺	0
FP	竹花	0	東	0
		11		16

〔審・高橋 田村〕

江東商22〔12—7, 10—7〕14佐賀関

〔戦評〕前半、江東商は相手のキャッチミス、インターセプトなどから次々と速攻を決めた。佐賀関は連続2本のペナルティー失敗などでリズムをつかめず。後半立ち上がり、江東商は相手の単調なシュートから逆速攻で6連続得点をあげ、粘る佐賀関を突き放した。

	〔佐賀関〕	得	〔江東商〕	得
GK	吉田	0	山田弥	0
GK	大本	0	古山	0
FP	吉永	2	水井	0
FP	湯浅	0	永尾	3
FP	実川	5	石原	5
FP	冨松	4	和久田	6
FP	上野	1	大澤	1
FP	松本	2	関	4
FP	上野	0	山田か	2
FP	関谷	0	大内	1
FP	竹田	0	根本	0
FP	姫野	0	水落	0
		14		22

〔審・伊藤 田中〕

小松商21〔10—9, 11—3〕12郡山女

〔戦評〕前半立ち上がりは、両チームともディフェンスが悪く点の取り合いとなる。結果は小松商が10—9の1点リードで終了した。後半に入り、小松商が10分経過までに5連続得点し、試合のリズムをつかんだ。郡山女は佐藤のサイド、ミドル、カットインで得点したが及ばず、郡山女が21—12で勝利を手中にした。

	〔郡山女〕	得	〔小松商〕	得
GK	工藤	0	宇野	0
GK	安田	0	伴	0
FP	岡部	1	西	0
FP	小林	1	山口	8
FP	大河原	4	西川	4
FP	佐藤	3	野沢	2
FP	今野	2	上出	4
FP	横田	0	坂井	2
FP	斉藤	1	石田	0
FP	千葉	0	早崎	0
FP	高田	0	宮本	0
FP	伊藤	0	山崎	1
		12		21

〔審・工藤 石川〕

名短付16〔10—3, 6—7〕10明倫

〔戦評〕立ち上がり、明倫のGK岡田の好守に阻まれていた名短付が、中盤からスピードあるプレーで明倫ディフェンスを切り崩し着々と加点した。後半開始まもなく明倫は、速攻で2点連取しリズムに乗ったかにみえたが、退場者を出してしまい本来のチームプレーができなかった。

	〔明倫〕	得	〔名短付〕	得
GK	岡田	0	平山	0
GK	野地	0	洞口	0
FP	村山	2	山田	6
FP	小荒井	4	飯田	1
FP	本郷	2	武藤	3
FP	桑原	1	加藤	1
FP	高橋	0	川口	1
FP	小川	0	新地	0
FP	宇都	1	梶田	0
FP	手柴	0	山川	2
FP	高橋	0	安田	2
FP	田代	0	中村	0
		10		16

〔審・清水 太田〕

準々決勝

宣真17〔7—5, 10—1〕6彦根商

〔戦評〕前半立ち上がり、宣真0・6、彦根1・5の固い守りをし、両チームとも得点を入れることができないでいたが、5分過ぎに彦根・森が速攻で得点を入れてから、宣真ロング、ポスト中心で、彦根カットイン、速攻で得点が動き出し7—5と宣真リードで前半終了。後半になると彦根の足の止まった攻撃に対し、宣真・木口、稲次のロングシュートが決まり出し17—6で宣真が勝利。

	〔彦根商〕	得	〔宣真〕	得
GK	山崎	0	上田	0
GK	渡辺	0	進藤	0
FP	馬場	2	稲次	5
FP	向田	0	木口	6
FP	小松	1	荒川	3
FP	森	2	水田	2
FP	奥村	0	関	1
FP	丸山	1	中里	0
FP	宮尾	0	小野	0
FP	藤本	0	橋本	0
FP	富江	0	大舘	0
FP	田中	0	野村	0
		6		17

〔審・清水 太田〕

聖和学園19〔9—7, 10—5〕12大曲農

〔戦評〕前半立ち上がり、堅いディフェンスに攻撃のリズムをつかめない聖和に対し、大曲農はサイド攻撃、ミスからの逆速攻で3—0とリード、10分過ぎにやっと得点できた聖和は、石垣のロングシュート、フリースローからのサインプレーで得点を重ね、八重樫のペナルティーで同点。大曲農もサイド攻撃、千田のロングシュートが決まるが、リズムを取り戻した聖和が前半9—7のリードで終了。

	〔大曲農〕	得	〔聖和〕	得
GK	武藤香	0	庄司	0
GK	伊藤	0	今内	0
FP	高橋さ	2	小田嶋	0
FP	千田	2	目黒	4
FP	中村	4	三嶋	1
FP	高橋弘	3	山口	3
FP	板谷	0	石垣	4
FP	小野寺	0	宍戸	0
FP	細井	0	佐藤	0
FP	小友	0	沼倉	0
FP	高橋初	1	藤田	4
FP	武藤奈	0	八重樫	3
		12		19

〔審・田川 中島〕

後半、荒い大曲農のディフェンスをペナルティー、あるいは退場者を出し、それを聖和が確実に得点に結びつけリードを広げる。大曲農も速攻で得点をあげるが、たび重なる退場者、23分には千田が失格となり荒いディフェンスが目立った。19—12で聖和が準決勝進出を決めた。

熊本女商16 {7—4 / 9—4} 8江東商

〔戦評〕江東は水井にボールを集め前半3分2—0と好調なスタートを切る。熊本はポストを多用し5分間に3連続PTを得たが、江東GK山田に好守され苦しい展開となるが、13分日坂の速攻から田中のミドルとリズムをつかみ3点差で後半へ。後半開始より、熊本は速攻、セットプレーと確実に得点を重ね一方的ゲームとなった。江東はGKを中心によく守っていただけに、後半の単調な攻めが惜まれた。

得	〔江東商〕		〔熊本女〕	得
0	小田弥	GK	岩本	0
0	古山	GK	森崎	0
0	水井	FP	高洲	0
2	永尾	FP	森下	5
2	石原	FP	田中	7
0	和久田	FP	鶴田	1
0	大澤	FP	日坂	1
3	関	FP	山田	1
0	山田か	FP	田中	0
1	大内	FP	松村	1
0	根本	FP	長嶺	0
0	水落	FP	東	0
8				16

〔審・大河原、池田〕

小松商13 {4—6 / 9—5} 11名短付

〔戦評〕試合のスタートは名短付がペースをつかみ山川のたおれ込み、ミドルシュートで2点をあげリードした。その後、小松商も早崎のミドル、西川のロングで追いついたが、名短付の加藤のポスト、飯田のポストでリードを奪い23分に山田のPTリバウンドの得点で6—4とリードした。後半に入ると、前半とはうって変り小松商がペースをつかみ、西川のミドルをはじめたて続けに得点し名短付を圧倒した。

得	〔名短付〕		〔小松商〕	得
0	平山	GK	宇野	0
0	洞口	GK	伴	0
4	山田	FP	西	0
2	飯田	FP	山口	4
1	武藤	FP	西川	4
1	加藤	FP	野沢	2
0	鈴木	FP	山岸	0
1	川口	FP	上出	0
0	新地	FP	中居	1
2	山川	FP	坂井	0
0	安田	FP	早崎	2
		FP	山崎	0
11				13

〔審・田村、高橋〕

準決勝

聖和学園15 {6—8 / 9—6} 14宣真

〔戦評〕前半立ち上がり、宣真は聖和のミスより速攻で先取、木口がマンツーされるが荒川のブロックより稲次がロングシュートを決めリード、聖和もサイド攻撃、石垣のペナルティーシュート、ステップシュートを的確に決め、小田嶋のロングシュートで同点に追いつく。21分には荒いディフェンスで聖和は退場者を出すが庄司の好守で宣真はリードを広げられず8—6で終了。後半に入り、山口のロングシュートでリズムをつかんだ聖和は逆にリード。しかし、宣真の木口もフリースローからロングシュートを決めシーソーゲームとなる。立ち上がりから宣真の木口にマンツーマンディフェンスについた聖和、庄司の好守も光り15—14で逆転勝利をつかんだ。

得	〔宣真〕		〔聖和〕	得
0	上田	GK	庄司	0
0	進藤	GK	今内	0
2	稲次	FP	小田嶋	1
4	木口	FP	目黒	2
1	荒川	FP	三嶋	1
0	水田	FP	山口	2
2	関	FP	石垣	4
3	中里	FP	安野	0
0	小野	FP	佐藤	0
2	橋本	FP	沼倉	0
0	大舘	FP	藤田	5
0	野村	FP	八重樫	0
14				15

〔審・田村、高橋〕

熊本女商24 {7—9 / 12—10 / 2—3 / 3—1} 23小松商

〔戦評〕女子準決勝2試合目は、熊本女と小松商の対戦となった。立ち上がり3分までに小松商は野沢のサイド、中居のPTでリードしたが、熊本女も田中のPTで反撃した。その後、両チームともディフェンスの甘さが目立ち点の取り合いになった。しかし、20分過ぎ小松商が3得点し9—7で終了した。後半に入り、熊本女はリズムをつかみ4連続得点し逆転したが、小松商も早崎のミドル、西川のミドル、PTで追い上げ、19—19で延長に入る。立ち上がり12秒、熊本女・日坂のシュートが決まると、小松も坂井のサイドで同点にする。延長後半残り3分で23—23で第二延長かに見えたが、残り20秒に得たPTで熊本女が24—23で逃げ切り決勝へ進出した。

得	〔小松商〕		〔熊本女〕	得
0	宇野	GK	岩本	0
0	伴	GK	森崎	0
0	西	FP	高洲	1
2	山口	FP	森下	6
4	西川	FP	田中	7
5	野沢	FP	鶴田	1
0	山岸	FP	日坂	3
2	上出	FP	山田	0
3	中居	FP	田中	6
3	坂井	FP	松村	0
4	早崎	FP	長嶺	0
0	宮本	FP	東	0
23				24

〔審・中島、田川〕

決勝

聖和学園17 {6—7 / 11—6} 13熊本女商

〔戦評〕熊本女は田中を中心に速いローリングで相手をゆさぶり、サイドシュートやペナルティースローを誘い得点を重ねる。一方、聖和は石垣のロングを軸にセットからのポストプレーで得点するが、2本のペナルティースローミスが響き熊本女が1点リードで前半を折り返す。後半に入り、聖和はポストプレーで着実に得点を重ね、守っては目黒の速い出足のディフェンスとGKの好守でロングを封じ勝利を収めた。

得	〔熊本女〕		〔聖和〕	得
0	岩本	GK	庄司	0
0	森崎	GK	今内	0
3	高洲	FP	小田嶋	0
0	森下	FP	目黒	3
6	田中	FP	三嶋	3
1	鶴田	FP	山田	2
3	日坂	FP	石垣	8
0	山田	FP	安野	0
0	田中	FP	佐藤	0
0	松村	FP	沼倉	0
0	長嶺	FP	藤田	0
0	東	FP	八重樫	1
13				17

〔審・岡本、清水〕

聖和感激の初優勝

第14回全国教員（指導者）養成大学ハンドボール研修会報告

将来教員を目指す大学生を対象に行なわれていた本研修会が、3年ぶりに日本協会主催、全日本学生連盟の主管で再会された。ハンドボール競技はスポーツ的価値や体育的価値が高いにも関わらず、普及が遅れているのが現状である。それは指導者の数が絶対的に不足しているためであり、本研修会も各方面からの要望が強かったため3年ぶりに再会されることとなった。本年は7月27日～7月31日まで筑波大学で開催された。

1. 役員、講師、補助員

中沢重夫、平岡秀雄、大西武三、村松誠、水上一、土井秀和、江成元伸、佐藤靖、笹倉清則、中島昭博、宮本章次、田村修治、杉森弘幸、小山浩、三輪一義、筑波大学男女ハンドボール部員、東海大学ハンドボール部員

2. 参加チーム

〈男子〉新潟大学10名、上智大学12名、秋田大学3名、信州大学9名、計34名

〈女子〉茨城大学7名、文教大学8名、新潟大学9名、信州大学7名、岩手大学6名、鹿児島大学1名、計38名　男女合計72名

3. 研修会賞

最終日には講習のまとめとして、ミニゲームのリーグ戦が行なわれ成積の優秀なチームには研修会賞としてトロフィーが贈られた。結果は、男子1位新潟大学、2位秋田大学十混成チーム、3位信州大学、4位上智大学、女子1位茨城大学、2位岩手十鹿児島大学、3位新潟大学、4位信州大学、5位文教大学の順であった。

4. 講習内容

第1日目の午前は、ポジション別に分かれて講習が行なわれた。2日目午前はグループ戦術の講習が行なわれ、3日目は先の世界選手権決勝ソビエト対スウェーデンのビデオを見ながら、ゲームのスコアーの付け方と記録の活用方法についての講義が行なわれた。最終日午前は選手権大会が行なわれた。午後はチーム戦術の講習が行なわれた。

夜は、第1日目はオリエンテーション、2日目は江成先生による、ルールと審判法の講義がビデオをもちいて行なわれた。3日目はチームミーティングとして、チームの独自性に任せている。4日目は経験年数別に分かれ全般的なQ&Aが行なわれ、また同時に各チームのキャプテンにはチーム運営のQ&Aが行なわれた。

講習内容はグループやチームによって異なっているが、だいたい次のようなものである。

▼研修日誌より

◇**7月26日〈午前〉**天候・曇り、場所・多目的グランド、チーム名・鹿児島大学、講師名・江成先生、記入者・南由美子

〈教育内容〉○パスキャッチ、高い地点でボールを離す（ひじを上げる）・左腕を十分に使う（ためる）・腰の回転を使用するために前足は斜めに構えた位置と違う角度からボールを離す。○ランパス、0、1、2、3、といつも数えて有効に使う・ゴールやまわりの状況、ボール、近くの人を見る・ボールをもらう前に状況把握する・ラテラルで速く・内側の足を柔らかくしておいて外側にけると同時に反対側にパス、○クロスプレー（2対1）、もらう時に素早く切り込む・パスした人は一度開く・もらってディフェンスを引き付けてラテラルパス＝速く、止まらんように＝◎ボールをもらってから弧を描くように走る。

〈感想〉パスキャッチという基本から習ってみて、肘を上げてパスする以外は初めて教わることばかりだった。やっぱり何といっても基本が肝心だなあ。ランパスも自分のところの部活でやるのと違ってとっても奥の深い指導をしてもらった。今まではまったくディフェンスを引き付けるようなパス

は出来なかったけど、今日初めてできたような気がする。こういった基本技術は簡単には身につかんから、今からの練習の中で、ただパスするだけじゃなくて1回1回注意してやっていこうと思う。

◇7月27日＜午前＞、天候・曇り時々晴れ、場所・多目的グランド、チーム名・新潟大学、講師名・笹倉清則、記入者・古泉一恵

＜教育内容＞サイドプレーの指導・アップ、（体操、ストレッチ、ランニング）・フットワーク（3歩ダッイュ、サイドステップ、アキレス腱を伸ばすように歩くなど）・対人パス、注意・・・左肩を向ける、腰をひねるなど・シュートのための練習・ゴールの真横に立ち体を横に倒しながらシュートを打つ。右からの場合は体をそらす。側面でなく、後ろのあみにひっかかるように、肘を伸ばす。腰をひねる。・ジャンプして同じようにする。注意・・・左肩を向け、ボールをかくすように、ひざの使い方（ステップの仕方）右サイドからの場合、体をそらし肘を伸ばすようにする・右ジャン・・・よりサイドからシュートを打つとき、内側に跳べることが大事・走り込むときのステップ（ひざの使い方）。

＜感想＞とても勉強になりました。私は、もう間違ったフォームが身についてしまっているのでこれからなんとか少しでも正しいフォームに直せるように努力したいと思います。特に、キャッチボールなど一つ一つのパスを大切に考え練習をして行かなければならないと思いました。また、ゴールの真横に立ってのシュートフォームの練習もいつでも簡単に出来るのでこれからの練習に取り入れて行きたいと思います。今までほとんど考えずに打ってきたサイドシュートですが、これにははじめからずらしていくシュートもあり、キーパーに真っすぐ向かっていって技を使うシュートもあるということを教わりました。それから、肘を伸ばしてボールの位置を顔から離すことによってシュートの角度が広がることや、小さい人は上に跳ばなければならないことなどもわかりました。自分が指導する立場になったときのことも考えて、指導法も勉強しなければと思いました。

◇7月28日＜午後＞天候・晴れ、場所・多目的グランド、チーム名・茨城大学、講師名・土井秀和、記入者・前田展江

＜教育内容＞＜チームプレー＞・ラテラルパスでパラレルの動き・センター、45度、サイドの

攻め、サイドは奥をとって45度のアウトフェイントに合わせてサイドがシュート（図1）サイドからパラレルで45度にパス、45度はきり返してサイドがシュート（図2）ポストも入れての攻め、ポストのブロックの上から打つ（図3）ディフェンスがういてきたらポストは位置を取り直して45度からポストパス（図4）。

・速攻・ワンマン・45度から逆サイドへ・45度から45度、サイドへ（45度かサイドにパスし、パラレルからシュート。図5、シュートを打たれた方の45度とサイド↓クロスして。図6）。

・ミニゲーム、VS、新潟、信州、岩鹿

＜感想＞人数が少ないせいもあって実践的な6対6のゲームをする絶好の機会でした。一番に反省で出たのがディフェンスの弱さです。特にポストパスを通され、そこから得点されることが多かったこと、1―5ディフェンスのボールに厚く厚くの動きがなされていなかったこと、個人個人では速攻で走れているのに2次速攻でつなげることが出来なかったこと、などミーティングでたくさんの反省が出てきました。また相手の勝負目の発見をすることや、打たせるディフェンスが出来ればよかったと思いました。個人的には、今チームが何を課題にしているのかを考え、ゲームの中でそれを重点的に行えばよかったと思いました。

◇7月29日＜午前＞天候・はれ、場所・多目的グランド、チーム名・文教大学、講師名・佐藤靖、記入者・鈴木美代

＜教育内容＞・パス（3人組でジャンプしてパス、パスすると同時に違う相手を見る、背中ごしでバックパスなど）・フェイントシュート、必ず0歩でボールをもらう。最大スピードでのプレイ、左へ抜くときは左手でドリブルするようにする。・ボックスのパス回し、45度がフェイントをかけるときポストと目を合わせること・3対2でのプレイ、サイドフェイント↓45度切込み↓ポスト、シュート、etc.・速攻、両サイドからハーフまでダッシュ、・キー練、・ディフェンス練習↓ボールへ密集する、6mまで戻るときのステップに注意する。

＜感想＞指導者もなく初心者ばかりのチームで練習がワンパターン化してしまっていたのに、ポイントを抑えた様々な練習法を教えていただいたので、今は全然出来ていないけれど、帰ってから一つでも確実に出来るようにしたいと思います。

◇7月29日＜午後＞天候・晴れ、場所・多目的グランド、チーム名・岩手・鹿児島、講師名・大西先生、記入者・南由美子

＜教育内容＞・パス・ボールを自由に操れるように、ジャンプしてキャッチ、パス、・フェイント、ディフェンスの前でしっかり両足で止まる、一度ボールごとゆさぶってフェイントをかける、フェイントは体ごと大きく（膝を柔らかく）、2対2でのフェイント（パスフェイント）ディフェンスを引き付ける、視線がポイント、・速攻、早くポジションをとってセットの型をつくる、まわりをよく見て、出来るだけ進行方向にパスするのは避ける（単純）、・ゲーム、相手の速攻は止められる、9Mライン以内に入ってきたらつめる、フェイントをかます、サイドと45度の連携プレー

＜感想＞フェイントを中心に指導していただいた。私はまだフェイントのフェの字もできない未熟者だったのでとてもありがたかった。一対一になったとき、フェイントで軽くかわしてシュートに持って行けたらすごく楽だろうなあ。フェイントもやっぱし、フットワーク、膝の柔軟さで大きく変わるんだそうだ。まず足腰を鍛えまくって、少しでもフェイントが出来るようになろう！それと、大西先生みたくボールを自由に操れるようになりたいな。

◇7月30日＜午前＞天候・快晴、場所・52B15（エアコン付）、チーム名・岩鹿大、講師名・平岡先生とその他の先生、記入者・穴沢由紀子

＜教育内容＞世界選手権（ソ連対スウェーデン）の試合を見ながらスコアの付け方を学ぶ。

＜感想＞今までのスコアの付け方というのは本当に簡単なもので、最近はギリギリの人数でゲームをやっているのでまったくスコアをつけていなかったので今日のはとても難しかった。けれど、このように詳しいスコアをつけておくと後に大変参考になって便利だと思うので、スコアをつけることは大事なことだと改めて認識した。昨日の審判のビデオもそうだけれど、とても難しいものであったけれど、普段はなかなか見られないのでとても良かったと思う。それに第一線のプレイは動きが大きくしかも素早くてそのうえジャンプ力もすごく私はもう驚くばかりだった。私もますますウェイトなどがんばって技術ももちろんだが、体力の方も向上させたいと新たな希望に胸を膨らませるのだった。

◇7月30日＜午後＞天候・晴れ、場所・多目的グランド、チーム名・文教大学、講師名・佐藤靖、記入者・佐藤和子

＜教育内容＞0、アップ・・・ランニング、各自ボールを使って、etc.1、スタンディングシュート（上・下）しっかりステップを踏む、2、ロングシュート、ディフェンスの上から打つ。3、ポストが上がって45度からパスをもらってポストはブロックをして、そこから45度シュート、4、6対

6、信州大学と合同（ディフェンス）ボールを持った人につめる、下は必ずポストを見る。三角形の頂点。（オフェンス）サイドの切込み左右、ポストの切込み左右。

＜感想＞今日はポストを使った攻めを教えていただいたのですが、ポストを使った攻めというのは上（フロター）の人と呼吸が会わなければできません。しかし、ゴールには一番近い位置にいるわけなので有効に使えれば得点率は高くなると改めて思いました。今まで教えていただいてきたことを6対6で試したり、ミニゲームで試したりしながら、皆で全体の動きを確認しあい、今後我がチームらしいプレーをつくっていく上で役に立ったらいいと思いました。

◇7月31日＜午前＞天候・はれ、場所・多目的グランド、チーム名・文教大学、講師名・佐藤靖、記入者・神田恵

＜教育内容＞選手権大会　岩鹿―文教12―2、茨城―文教5―1、新潟―文教5―2、信州―文教3―2。

＜感想＞この研修会に参加して、今までの自分たちの練習の仕方が根本的に間違っていたと思いました。上と下のコンビプレーなど実践的な練習をしていきたいと思います。また、一人一人技能がなく体力もないので、基礎的な練習をし一人一人目標を持って技術を向上して行きたいと思います。

機関誌ハンドボール「300号」のあゆみ②

第101号（1972年9月）
・オリンピック速報
・「女子」の実施も決まる
・オリンピック開会式
・公認普及員制度を検討
・初の全国中学生大会
・全日本高校選手権
・総評／嶋田新太郎
・全日本女子実業団男子展望
・全日本実業団選手権
・全日本教職員選手権
・日韓高校交流
・IHF総会解説
・スポーツ少年団指導報告

第102号（1972年10月）
・日本、11位に終る
・オリンピックを終って／荒川清美
・ミュンヘンオリンピック特集
9～12位決定トーナメント
予選リーグD組
日本、11位反省
決勝戦観戦記
順位（3～16位）決定戦
準決勝リーグ
予選リーグ（A～C組）
・数字でみるオリンピック
・帰国報告試合ほか
・IHF名実ともに世界的機構へ
・全国中学生大会後記
・第27回国体展望
・国体地域予選決定記録
・全日本学生東西対抗
・執行部・強化新路線へ
・女子も頂点強化に積極策
・九州選手権あれこれ／平仲考栄

第103号（1972年11月）
・理事長登壇
・全国理事会
・女子ナショナル決定
・男子世界選手権へ参加
・第25回国体記録
・日韓社会人交流
・第13回男子全日本実業団
・各地秋季学生記録
・インカレ展望
・オリンピックに参加して
・ミュンヘンへの反省
・名古屋の少年教室

第104号（1972年12月）
・理事長登壇
・女子世界選手権組み合せ
・ジュニアナショナル決定
・日韓社会人交流
・整理が必要な国体参加規定
・全日本総合選手権予想
・ミュンヘンレポート
・全日本学生選手権
・各地秋季学生記録
・指導者研修会報告
・インターハイ参加選手の体力

第105号（1973年2月）
・理事長登壇
・世界選手権予選選手団決まる
・世界女子アジア予選
・全国理事会・評議員会
・ギョッピンゲン日程決る
・全日本総合選手権
・ミュンヘンレポート
・青木、石塚君を悼む
・指導者研修会報告②
・ハンドボールの間合
・国体への注文

第106号（1973年3月）
・理事長登壇
・日本協会新体制決まる
・48年度事業日程
・世界女子アジア予選
・新登録制度本決り
・ジュニア指導陣決まる
・全日本総合選手権基準要項
・どうなる今後の国体
・全国評議員会への議論
・ラインハウゼン来日か
・各加盟団体役員決まる
・「クラブの基準」施行へ
・新しい流れへの提案
・IHFミュンヘン報告
・ハンドボールのABC

第107号（1973年4月）
・理事長登壇
・世界女子選手権予選
・強化委員会発足
・ギョッピンゲン来日
・全日本男子ジュニア合宿
・ユーゴ招待有望
・荒川理事長に聞く
・専門部担当理事の抱負
・審判審査委改善さる
・ルール改正の問題点
・47年度重大ニュース
・常務理事会の動き
・新しい流れの提案
・仏軍艦と交流
・実業団男子ビック4リーグ
・名古屋テレビ杯・全国女子実業団トーナメント

第108号（1973年5月）
・理事長登壇⑥
・全日本女子再編成へ
・世界男子選手権・開催国結論もちこす
・訪韓全日本学生決る
・ギョッピンゲン来日
・専門委人専進む
・全日本侯補重機を制す
・審判更親料改善を検討へ
・沖縄国体始まる
・第2回全国中学生大会要綱
・自衛隊選手権組合せ
・新しい流れへの提案
・海外トピックス
・ハンドボールのA・B・C

第109号（1973年6月）
・理事長登壇⑦／相原一矢
・ユーゴ、ラインハウゼン来日
・全日本男女発表へ
・沖縄特別国体終わる
・第5回全日本自衛隊選手権
・新しい流れへの提案⑧
・特集・有力チームアンケート
・NHK杯・全国実業団展望
・各地学生春季リーグ記録
・ナショナルチーム研究　第4報

第110号（1973年7月）
・理事長登壇⑧／森嶋清明
・ユーゴ来日日程
・世界男子アジア予選
・男女、世界選手権への具体策
・全国理事会
・日韓学生交流
・第20回NHK杯
・愛知県中学アンケート
・全日本実業団（男女）予想

・全国選抜女子大会
・今年の重大ニュース

▼第130号（1975年5月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・全国理事会、荒川氏5選
・田村―荒川体制の課題
・AHF新局面へ
・日本・スペイン国際親善試合
・日本実業団リーグ展望
・ビッグフォアリーグ
・全日本男子合宿報告
・ハンドボールいろはかるた
・日韓社会人交流近づく

▼第131号（1975年6月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・全国理事会
・7月に全国教育系大学研修会
・日本実業団リーグ（女）開く
・第4回日韓社会人交流
・全日本自衛隊選手権
・アンケート・有力チーム新戦力
・審判部中央研修会報告
・各地学生春季リーグ
・日韓学生メンバー
・アメリカのハンドボール

▼第132号（1975年7月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・日本協会財政の解説
・日韓学生交流
・アジア予選開催地
・全日本男女始動
・日本実業団リーグ
・各地学生春季リーグ

▼133号（1975年8月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・50年度全日本女子決まる
・日本リーグ前向きに検討
・モルテン・IHF公認球に
・全日本高校展望／嶋田新太郎
・全日本教職員展望
・日本協会財政の解説
・全国女子実業団大会
・日韓学生リポート／久保義雄
・全日本教職員連への提言

▼134号（1975年9月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・プレオリンピック代表決まる
・プレオリンピック展望
・全国代議員会
・第26回全日本高校選手権
・第4回全日本中学生大会
・第18回全日本教職員選手権
・IHF審判研修会報告

▼135号（1975年10月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・アジア予選、日本協会積極姿勢
・プレ団長に荒川氏
・プレ五輪壮行試合
・佐賀国体、縮少決まる
・三重国体の話題を探る
・投書特集—日本協会財政
・日韓高校交流
・全国高専選手権
・夏の二行事回顧
・日本協会五大会の問題点
・全日本学生東西対抗

▼136号（1975年11月）
・世界女子代表決まる
・モントリオールへの道
・オリンピック予選
・男子ナショナルを発表
・モントリオール・リポート／荒川清美
・プレオリンピック
・モントリオールより帰りて／竹野奉昭
・世界女子代表の横顔
・本田選手、50試合出場
・IHF審判講習会報告②
・全日本学生選手権展望
・日本リーグ問題

▼137号（1975年12月）
・モントリオールへの道
・市民ハンドボールの芽
・「世界女子」へ出発
・オリンピック予選、決定延びる
・普及活動、具体化
・「日本リーグ」新局面へ
・世界女子選手権展望
・オリンピック欧州予選
・全日本総合選手権展望
・審判員規定かわる
・IHF審判講習会報告③
・三重国体
・全日本学生選手権

▼138号（1976年2月）
・アジア予選決まる
・日本リーグ実施へ
・第6回世界女子選手権
・第2回東独交流
・〝五輪イヤーを迎えて〟／竹野奉昭
・AHFついに完成
・モントリオールへの道

バルセロナ・オリンピックをめざす全日本男女を応援しよう!!

来年8月に広島で開催されるアジア選手権大会でバルセロナ・オリンピックへの出場権を賭けてがんばる全日本男女チームへみなさんの応援のメッセージをお寄せ下さい。

(財)日本ハンドボール協会

・市民ハンドボールの芽
・佐賀国体新配分決まる
・第27回全日本総合選手権
・全日本総合に拾う
・日本ハンドボール史に協力を
・ＩＨＦ審判講習会報告④

▼139号（1976年3月）
・アジア予選代表決定
・女子五輪候補を発表
・アジア予選の話題
・アジア予選かく戦う／竹野奉昭、東嘉伸
・アジア予選審判員決定
・モントリオールへの道
・アジア予選代表球歴
・全国代議員会・理事会
・アジア連盟スタート
・普及部専門委発足
・世界女子選手権リポート
・ＩＨＦ審判講習会報告⑤
・五輪欧州予選
・全国実業団トーナメント
・日韓女子社会人を予定

▼140号（1976年4月）
・土曜の集い（東京）発足
・男子五輪アジア予選
・ヨーロッパ予選終る
・ドロット来日
・ＩＨＦ「ＡＨＦ」を報告
・日本リーグ準備進む
・ＩＨＦ審判講習会報告
・51年度日本協会予算
・インターハイ選手の体力
・日韓女子社会人交流
・全国選抜女子大会
・50年度重大ニュース
・Ｅ・ホルレ氏追悼／安藤純光
・日本協会に新路線を／小西博喜

▼141号（1976年5月）
・日本、五輪へ連続出場
・アジア代表決定戦
・五輪組み合せ決まる
・アジア予選、二つの視点
・ドロット来日特集
・日本リーグ発足
・全日本総合新方式に
・全日本実業団展望
・審判部中央研修会報告
・高校優秀選手の体力
・土曜の集い盛況

▼142号（1976年6月）
・男子五輪代表決まる
・女子予選代表決まる
・選考の経過
・男子日程決まる
・3大陸予選展望
・全日本女子に期待する
・日韓学生近づく
・日本リーグ
・日本実業団リーグ
・有力チーム新陣容
・五輪予選の審判をつとめて／佐野和夫

▼143号（1976年7月）
・全日本女子出発
・意気あがる女子合宿
・男女選考基準
・ＡＨＦへ加盟
・日本リーグ委員会人事
・日韓学生交流
・各地学生春季リーグ

▼144号（1976年8月）
・女子3大陸予選
・オリンピック展望
・女子「栄光の舞台」まで
・男子代表の抱負
・審判員研修会報告
・日新、日本リーグへ
・実連会長杯女子大会
・全日本自衛隊選手権
・夏の6大会の話題

▼145号（1976年9月）
・日本リーグ開幕
・日本リーグ展望
・リーグへの期待／田村正衛
・日本リーグ選手名簿
・モントリオール五輪特集
　健闘の女子5位
　男子、9位に食いこむ
　予選リーグA組
　予選リーグB組
　男子順位決定戦
　男子決勝
・女子3大陸予選
・全日本高校選手権
・夏の3大会速報

▼第146号（1976年10月）
・荒川理事長に聞く
・日本リーグ
・佐賀国体近づく
・日本リーグへの注文／後藤忠弘
・モントリオール特集②
　男子選手寄稿
　女子選手寄稿
　大会をみて／光島磯雄
・全日本教職員選手権
・全日本中学生大会
・全国高専大会
・学生東西対抗
・学生界の話題から
・日韓高校交流
・全国少年団キャンプ

▼第147号（1976年11月）
・世界学生メンバー
・イスラエル、欧州へ
・全日本女子　宮中茶話会
・実連ジュニア、韓国遠征
・全日本学生選手権展望
・日本リーグ
・モントリオール特集③
　監督・コーチ寄稿
　男子代表選手寄稿
・国体参加問題

▼第148号（1976年12月）
・宿願の2大会実現へ
・全国代議員会・理事会
・全日本総合選手権展望
・日韓男子社会人
・佐賀国体
・モントリオール特集④
　大会を数字でみる
・全日本、活動を再開
・世界学生選手権
・各地学生秋季リーグ

▼第149号（1977年1月）
・渡辺ＩＨＦ理事に聞く
・全日本総合選手権
・全日本総合に拾う
・第2回日本リーグ準備進む
・藤中、中井公式国際戦50回
・「高校選抜大会」慎重に
・世界学生選手権近づく
・全日本学生選手権
・山口町少年スクール

▼第150号（1977年2月）
・日本協会、40回目の誕生日
・機関誌150号に
・ハンドボール界主なできごと
・ハンドボール界主要記録
第1部　オリンピック
　世界選手権
　公式国際試合
　国際試合
　日韓定期戦
　世界学生選手権
第2部　全日本総合選手権
　全日本総合室内選手権
第3部　全国中学生大会
　全国高専選手権
　東西対抗
第4部　全日本学生選手権
　日本リーグ
　全日本高校選手権
　全日本教職員選手権
　全日本実業団選手権
　全日本自衛隊選手権
第5部　国民体育大会
・ニューズサマリー

'91広島

アジアハンドボール選手権大会

を成功させよう!!

—第6回男子・第3回女子アジアハンドボール選手権大会

兼バルセロナオリンピックアジア地区予選—

〔日程〕　一九九一年八月二十二日㈭〜九月一日㈰

〔大会会場〕　広島サンプラザ・広島市東区スポーツセンター

㈶日本ハンドボール協会

広島県ハンドボール協会

（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三〇一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成二年八月二十六日 印刷
平成二年九月一日 発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表（481）二三六一
振替 東京 六－五八三四八番
編集兼発行人 安藤純光
定価三百五十円（年間購読料三千三百円）